

※以下、市民向け説明会・シンポジウムにおける質疑応答です。

市民向け説明会 質疑応答 平成30年1月16日 西文化小劇場

発言者	発言内容
1人目 (昭和区)	<p>この城は何十万人もの観光客を入れるためのお城であると思うのですが、それに対して燃えるお城ができてしまうわけですが、火災対策とか、耐震基準がどうなっているのか。そんな基準が無かった昔のお城に戻すということですが、観光客がちゃんと入って防災できるような手立てはどうやってなさるのでしょうか。木造というのは基本的には3階建て以上は建てられない基準があると思うのですが、その適用を除外するためには国宝級の文化財であるということが文化庁に認められなければならないとかがあると思うのですがバリアフリー対策や防災・火災といったハイテク技術を駆使されることと思いますがそういったものが含まれた木造はハイテクレプリカになると思うのですがハイテクレプリカでも文化庁は国宝級と認めることになるのでしょうか。竹中工務店が協定で2月末までに基本設計を完成するという事になってると思うのですが、それはハイテク技術を入れて、そして文化庁に認められるようなプランが2月末までにできるのでしょうか。</p>
2人目 (西区)	<p>昔は絵の入った襖や障子が展示してあったけど、今はそういうのが全く無いので、複製品でも良いのでまた展示してほしい。また、東別院のように広い畳の部屋などは気持ちが良いので、そういう部屋にも自由に入れるようにして、お殿様みたいにお城の気分を味わえるようにして欲しい。畳の部屋はすこぐ気持ちが落ち着くので。破っても良い障子を用意してもらって、抽選で1日1組とか限定で破っても良いようにしてほしい。そういうところで障子を破れたら爽快で気持ちが良いと思うので。城の真ん中のエレベーターは不便だと思うので、エレベーターは城の外から入れる形で良いと思う。真ん中だとまわりをグルグル回らなくてはいけないので不便だと思う。車イスの人用にリフトみたいなものを使うのも、導線をしっかりと考えた方が良いと思う。京都の舞妓さんのレンタル衣装のように、名古屋城でも着物等のレンタル衣装を出して雰囲気味わえるようにしたら良いと思う。</p>
3人目 (北区)	<p>今回の木造復元は大反対でありますし、そもそも木造復元という民意は、名古屋市民は木造復元をいつ求めたのでし</p>

ようか。木造復元が良いのか、現天守を耐震＋長寿命化を行い大阪城のように登録有形文化財として末永く子孫に伝えるという選択肢はないんですか。木造復元と現天守の長寿命化、この二つが大きな論点じゃないんですか。今見させていただきましたCG、まことにすばらしいものです。竹中工務店さんのそういった労作には本当に敬意を表します。そして、さまざまな史実を掘り起こしていただいたことも本当にご苦労なことだと思います。しかし、残念ながら、内部図面・構造図については、ないものは無いし、あくまでも復元ではなくレプリカ、見た目の復元でしかないじゃないですか。そういった復元・レプリカが国宝とか世界遺産として認められた試しがないでしょう。それがさも国宝や世界遺産になるだろうと言って市民を騙してこのような計画を進めることは、民主主義どころか現代社会において許されない暴挙じゃないですか。

なぜ、現天守を壊さなければならないかということ。

名古屋市の本庁舎は昭和8年、大阪城は昭和6年でもっと古くから作られているのです。コンクリートは長寿命化工事を行えば100年でももちます。大阪城の前館長さんが、「大阪城はまだ100年もちます」とおっしゃってます。長寿命化すればもつ。逆に木造天守であってもメンテナンスを怠れば、当然数年、数十年で老朽化するでしょう。同じじゃないですか。東大寺もちゃんとメンテナンスをしているんです。名古屋市庁舎は今、重要文化財で、大阪城は登録有形文化財だ。名古屋城も申請さえすれば登録有形文化財の価値があると認められています。この現天守をなぜ壊さなければならないのか、その説明を私は1回も聞いていない。市民がお金を募り、市民が建てた名古屋の誇りじゃないですか。この昭和34年の名古屋城再建計画はNHKの『プロジェクトX』でも取り上げられています。一度ごらん下さい。その中で当時の工事に携わった方が涙を流しながら、これは名古屋市民の魂の城だとおっしゃっているんです。この名古屋市民の魂の城をなぜ、今、壊さなければならないんだ。私には理解ができない。

館主幹
(司会・ナゴヤ
魅力向上担当
部)

それでは3人の方からご質問をいただきました。最初の方からは3点ですね。1つ目が火災対策・耐震対策そういった安全対策については大丈夫か。2つ目につきましては3階以上の建物については建築基準法の適用除外となるけれども、何らかのハイテクな技術というのが必要になってくると、そういった部分が史実に忠実な復元ということ

で文化庁からそういったものが認められるのかということ。3点目といたしまして、現在設計等を進めているけれども、そういった様々な課題がある中で2月末までに間に合うのか、ということだと思います。2人目の方からも数点の質問がありました。まず1つ目が、殿様気分が味わえるようにしてほしいけれどもそういった工夫は考えているのかと、あとエレベーターにつきましては、中ではなく外から設置して、そういったアプローチを考えたらどうだと。あと、服装など昔の着物とかですね、そういった服装などを貸すなどの、工夫を考えたらどうだということだったと思います。最後の方は2点ですね。まず1つ目が、現天守閣について耐震とか長寿命化、そういったものをすれば壊す必要はないんじゃないかと、なぜ現天守閣を壊さなければならないのかということ。あと、2点目といたしまして、現天守閣につきましては昭和34年当時の市民の誇りとなっていた建物だと、そういったその誇りとなっていた建物をなぜ今回壊す必要があるのかということだったと思います。それでは、まずは名古屋市のほうからお願いいたします。

渡邊主幹
(名古屋城総合事務所)

ご意見どうもありがとうございます。まずは1人目の方からお話がありました名古屋城の方には多くの方が入ってくると、その入ってくる方々には火災だとか耐震性だとかについてどうだ、といったお話しだったかと思えます。木造復元についてはまずは、史実に忠実に木造復元をしていくといったことが、まずは大前提の基礎となっているそのように考えているところでございます。ただ、現代として、お話もいただきました例えば火災とか耐震性に関する問題そのものについては、やはり復元、当時の史実に忠実ということもありませんながら、付加要素として耐震性能といったことの内容について現行基準の耐震性能以上の建物、いわゆる耐震の性能を持たせた建物にしていく必要があるのではないかと、とそのように今考えていることでございます。その内容につきましては、史実に忠実に基づきながらもどういった構造の補強ができることもあるのかということを検討していく必要があるというふうにございます。あと火災等につきましても、当然、まずは火の元をどういう風に入れさせないかといったこともありますけれども、そういったところもありながらも、例えば何か火災等あったときにどのように訓練をしていくかといったこととか、あとは火災が起きた時にどの

ような対策をしていくかといった消防の設備の観点からも史実に忠実というのもありながらも、付加要素として検討していく必要があるという風に思っているところです。そういった内容については今構造的な内容の議論を重ねながら、また、消防についても関係部局と調整を取りながら進めていきたいと、そのように考えているところでございます。

あと、2点目につきましては、そういったハイテク技術を伴ったお城といったものに対して文化庁は認めるのかといったご意見であったかと思えます。その内容につきましては、史実に忠実に復元をしていくというものもあるものの、当然ながら、今後管理をしていくといった側面でも、管理上の配慮といったことが必要ではないかと、思っております。そういった内容が耐震であったり、火災への対策であったり、といった風に考えているところです。そういった内容についても今後市としての方向性を示しながら文化庁ともご相談させていただきたいと、そのように考えているところでございます。あと、基本設計等について2月末という工期になっているがそれで終わるのかといった話だったかと思えますが、市側としても2月末までに基本設計等を終了していくように努力をしていきたいと、そのように考えているところでございます。

続きまして、2人目の方のご意見でのご回答をさせていただきたいと思えます。自由に入れるようにいろいろな方がみえるので気分的なものを味わっていききたい、そのお城といった雰囲気味わっていききたいといったお話だったかと思えます。そういった内容につきましても、今後木造復元をしていく中でですね、運営面でどのような形で皆様に、お城といったものはどういったものであったかといったことをですね、肌で感じていただけるような、何かいろいろと方策はないかといったことも考えているところでございます。例えば、CGでもありましたが、例えば鉄砲の狭間はどんな風だったかとか、石落としがどういう状況だったのか、そういったお城、いわゆるその当時、往時の時代の使われ方としてどういう風な形で使われていたかというところをですね。ぜひ皆さんに来ていただいた方に肌で感じられるように、感じ取っていただけると、そのときの時代はこういった時代だったんだなといったことで、携わっていけるかなと、という風に考えているところでございます。

あと、エレベーター等についてのお話もいただいたところ
でございます。また、今先ほどバリアフリー化といったもの
に対して、ご説明をさせていただいておりますけれども、いま、市の方でも皆様に色々ご意見賜りながらも、色々
検討していきたいという風に思っておりますので、そうい
った形についても、また、方向性を出していきたいという
風に考えているところでございます。

あと、3人目の方のお話をいただきました。なぜ、いま現
在、現天守を取り壊さなければいけないんだといったお話
をいただきました。今の天守閣の現状の方として、ある問
題点、課題がございます。そういった中で、まず昭和 34
年に建物ができまして、今からですと約 60 年弱の月日が
経っております。建物自体、大天守・小天守も建物自体
が、実際のところは、老朽化をしてきているというのが一
つ、あとは、設備面に関しましてもやはり老朽化してい
るといったところがございます。そういったなかで、この天
守閣をどういった形にしていこうかと、1年前にはなりま
すけども 2 万人アンケートの方をさせていただきました。
そのアンケートをさせていただいた結果ですけれども、長
寿命化という話につきましてですけれども、長寿命化につ
きましては、色々先ほど大阪城さんでやってみえるとい
った話をされておりました。市の当局といたしましては、
長寿命化をするといったことに関して、その、長寿命化し
たことによって何年もつかといったことが断定するこ
とがなかなか難しいのではないかと感じております。

長寿命化についてですけれども、長寿命化につきま
しては、例えば長寿命化の対策をしたと言ってから、その長
寿命化対策にしたものが、今後何年もつかといったこと
自体が、なかなか断定することが、難しいのではないかと、
そのように考えているところでございます。木造に関しま
しては、いろいろと昔のですね、建物自体も木造されたも
の、木造から大事に維持保全をしながら継続して残ってい
るという実績もございますので、維持保全をしてまいり
たい、という風に思っております。

西野所長
(名古屋城総
合事務所)

すいません、いま私も話の途中ですけれども、今の天守
閣、おっしゃったように戦後復興で非常にまあ大きな意味
のある天守閣だという風に我々も認識しております。た
だ、耐震性が低いという問題は現実的な問題としてあり
ます。それから、老朽化が進んでいくという問題はこれも現
実的な問題があります。ですから、そういう状態を見据え

	<p>て将来的にどうしようかということを検討する中で、一つ耐震改修をするということ、それから木造復元するという こと、この二つを考えました。その際に長寿命化につつま しては、これは、この長寿命化の施工した場合にどれだけ 寿命が延びるのかということについて、確証がないという ことですので、すいません、説明しております、今。説明 しております、今。木造については、古い建物も現在残っ ている、ですから、メンテナンスをすることによって、こ れは長く持たすことができると、いや申し訳ございませ ん、そういう判断で我々のご意見もお聞きしながら、議会 にも議案を出しながら進めてきた。そして今、ここまで来 ているということですので、ご理解賜りたいと存じます。</p>
館主幹	<p>すいません、また、もしもご意見があればですね、アンケ ートの中でですね、すいません、ちょっとお時間もありま すので、ここで申し訳ございませませんが、ご協力いただき たいと思います。それでは、他に質問のある方お願いいたし ます。じゃ、一番後ろの方。</p>
4 人目 (昭和区)	<p>僕は、車椅子を使って生活をしているのですが、名古屋城 天守閣が新しくなるということでエレベーターが付くか 付かないという議論が進んでいるのですが、僕たちはそこが すごく不安です。僕たちはどうやって入ればいいんだろ うかと。 説明の中にあつたチェアリフトを使用するということ ですが、チェアリフトは階段につけますよね？その時に、他 の入場者の規制をするということは、市としてはどうお考 えなのかお聞きしたいです。</p>
5 人目	<p>他の方と重複するかもしれませんが、小学校 5 年生の時 に名古屋城が燃えまして、今のお城が建つ時に金シャチを 大阪から運ぶということで、今日はどこまで運んできた とか、新聞に毎日出ていて、楽しみにしていた城がやっと できた。名古屋城は戦争のなかった城だと思っ ているようですが、実際にはアメリカの空襲でやられたん ですよ、これは戦争です。酷いやり方でなくなっ てしまったのですが、そこから、市民の力で建替 えたのでこれは、戦争があつたことを忘れない ためにも重要な城だと思います。なので、 竹中さんの資料にあつた写真とかこういうもの は他でちゃんと展示して、こういうものがあ つたということを示して、今の城は残して 欲しいという意見です。 なぜ反対の人がいるのに進んでいるのか？ 2 万人のアンケートをやつたよう ですが、アンケートとかその程度では</p>

なく、ちゃんとした市民の意見をまとめて欲しいと思います。私も何年か前にアンケートを書いたときには、木造もいいなと丸をつけましたがいろんな人の意見を聞いて、今は壊すなという意見に変わってきました。当時アンケートを答えた人の中には同じように意見が変わってきている人もいるかもしれない。なので、話が進んでいく前に名古屋市民の意見をまとめてほしいと思います。アンケートではなくて市民投票をしてみてもどうでしょうか？

6 人目
(守山区)

竹中工務店さんの資料は大変すばらしかったです。学校等で是非活用して下さい。

やはり木造復元というのはスタートからおかしいと思うんです。2年前の2万人市民アンケートで木造賛成が多いと市長さんがおっしゃってましたが、アンケートの質問が悪かったと思います。アンケートには、現天守閣を耐震補強しても寿命は40年と書いてありましたが、これは誰もが認めることではないです。何もしなければあと40年かもしれないけど、耐震補強とコンクリートの劣化を防ぐ工事をした大阪城はあと100年もつと言われてます。名古屋市役所も4年前に築80年で耐震補強をしている。2年前のアンケートは、市民の声をちゃんと聞いて下さい。

お金について。耐震補強は29億円でできるって市が言いましたよね？木造復元は500億円かかると。河村さんは、年間360万人の入場者が入ったら、これが50年続けば入場料でまかなえるので税金を投入しなくていいと。50年後には河村さんはいないだろうから、責任は取れないと思うんだけどその根拠はなんですか？市の担当者の人に聞きたい。甘いと言うよりも、ものすごくいい加減な予測だと思います。個人的に姫路城に行って現地の職員の人に実際に話を聞いてきましたが、年間の入場者数は287万人だそうです。名古屋市が考えているのは360万人で287万人でも大変な状況だったそうです。さらに翌年は4分の3で211万に減ったそうです。現実的な入場者数の予測を出して、税金投入の可能性があるなら、市民にちゃんと初めから説明するべきだと思います。

現在の天守閣を、耐震化、長寿命化をして、大切に後世に伝えて欲しい。名古屋城と同じ鉄筋コンクリートの大阪城は、20年前に平成の大改修をやって、学芸員を増やして、博物館機能も充実させたり、エレベーターで最上階まで行けるようにしました。そして、車椅子の入館者は、改修前までは年間20人から30人だったのがなんと3000人に増

	<p>えた。みんなが行けるようになった。なので、高いお金を払って木造化を進めるよりは、現状改善によって、みんなが利用できて、愛される名古屋城にして欲しい。今からでも遅くないので方向性を変えて欲しいと思います。</p>
<p>館主幹</p>	<p>3人の方からご質問をお伺いしました。あの、静かにお願いいたします。まず1人目の方ですね、まずエレベーターのことをご質問がありました。エレベーターがなくなるとどのように上がっていけるのかと。そういったものが不安になるので、どういう風にするかを考えているのかということと、チェアリフトの場合、他の入場者の方にも制限かかると思うが、どういった運用を考えているのかということで、2点のご質問があったと思います。</p> <p>2人目の方、2万人アンケートが今回あったと思うけれども、市民の意見を改めて聞いてもらいたい、住民投票みたいなものは考えられないのかということでした。</p> <p>3人目の方から3点ですね、1つ目が木造復元の今回スタートを切ったやり方がおかしい、アンケートはアンフェアなのでやり直すことができないのかということ。2つ目として今回500億の事業費について、360万人という年間入場者数で賄うと聞いているけれども、もっと現実的な数字を出すべきであると。姫路城ですら287万人であるということでした。最後に、耐震化・長寿命化をして後世に伝えるべきであるということでした。まずは名古屋市からお願いします。</p>
<p>中野主幹 (名古屋城総合事務所)</p>	<p>1人目のご質問に対する回答でございます。エレベーターが付かない議論が進んでいるということに不安を感じておられると、どうやって自分たちが上ることになるのかというご質問ですが、先ほどのご説明と重複になりますが、今現在進めております木造復元は、史実に基づき忠実に復元することを基本方針としております。そのため外観だけではなく内部空間も含めました真実性の高い復元を行うこととしております一方で、当然のごとくバリアフリー対策等様々な方に喜んでもらえるものになりたいと考えております。そこで障害者団体や高齢者団体の皆様はじめ、色々な方から意見や要望を聞いたうえで、最終的にエレベーターを設置するのか、設置しないのか、あるいは代替施設を設けるのか、そういった検討結果を3月までに方針を決定していきたいと考えているところでございます。</p> <p>もう1点でございますが、名古屋市が提示しましたチェアリフトの使用にあたりまして、他の入場者を制限する、</p>

これをどう考えているのかといったご質問ですが、チェアリフト稼働時には一般の観覧者の入場を一旦制限して、チェアリフトを稼働している間は止まって待っていただくことを想定しておりましたが、やはりこういった運用も、障害者団体や高齢者団体の方から色々意見を伺っておりますので、こういったチェアリフトを設置する場合の運用も含めまして今後検討してまいりたいと思います。

西野所長

名古屋城天守閣木造復元の方針についてのご質問といたしますか、それをさらに市民の意見を聞いて考えるべきではないかというご意見をいただいたという風に思っております。大阪城が長寿命化をしていることもあり、そういう施工をされている、名古屋市役所も耐震改修をしたということがありますので、そういう方法を取るべきではないのかと、そういう風なご意見をいただいたのかなと思っております。まず今ある天守閣は戦後の復興のなかで、天守閣がなくなって石垣だけになった、そこに外観をそのままに作ったということで、非常に意義の大きな建物だったという風に思いますので、これについては天守の木造復元をしても、この今の天守閣の記憶というものが市民の中でもしっかり残るようなことは、我々しっかり考えていかないといけないと思っております。

一方で今回の木造天守については、いわゆる大阪城についても、過去の古文書であるとか、写真であるとか、あるいは実測図といった詳細な資料がありませんので、なかなか木造で復元することが難しい。これだけ詳細な資料が揃っている天守閣は、名古屋城をおいて、現存しているところを除けば、名古屋城しかないのではないかと。これだけ名古屋の街を作ったシンボリックな建物である天守閣を史実に忠実に復元できるということが非常に大きな意義があるということ、名古屋市としては方針として持ちました。アンケートも取らせていただきました。ただそのアンケートだけで決めたわけでもございません。そういったものを踏まえながら、市として木造で史実に忠実に復元することが良いのではないかとという方針を持って、議会のほうでも9か月間議論をいただきまして、その結果今進めていくというところに来ておりますので、私どもとしては、あくまでも木造復元を進めていくということでございます。そういう中で、ご指摘いただいた今の天守閣の価値というものは十分踏まえて検討していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

発言者	発言内容
1 人目 (熱田区)	<p>そもそも、お城に大変興味のある方には、今日は楽しいお話だったと思いますが、私はお城には興味ありませんので少々退屈でありました。では何故ここに来たのかというと、まずこれは市の仕事ですから、税金を払うのは市民ですから、そのシワ寄せがくるのではないのかと、その恐ろしい気持ちを持ってまいりました。予算の裏付けの説明が全くございませんでした。そして、名古屋はいつ地震がくるかが分からない中で、木造化は地震に耐えられるのか？という説明がありませんでした。マイナス面を語らずにただ復元するだけが目的というだけでは、そんな余裕が名古屋市にあるのかという思いもいっぱいあります。率直に言って、竹中工務店だけが儲かるだけでは困ります。市の当局は、市のやる事業ですから、予算面とか安全面に対してもきちんと説明するべきではないかと思います。</p>
2 人目 (南区)	<p>ずいぶん前の話ですが、先回のお城ミーティングの時にはマイクを取り上げられるという事件がありまして、あまり話したくないのですが、お伺いします。</p> <p>まず、CGの映像を見させていただいたのですが、これは、竹中さんがこういう風に作るよということで、経過を説明されたのかなと思うのですが、その前に、まず、石垣の調査等でストップしていると。しかも石垣調査ができなければ基本的な設計が終了しないのか、するのか、その辺りもハッキリしていません。ところがCGでは見事にお城の内部まで見せていただきました。こういう説明会でそういうCGを使ってやるぐらいなら、現在のお城の中で、昔の姿は木造でこういう形であったんですよと表示すれば十分理解できるのではないかなという風に思いました。</p> <p>それから2つ目ですが、史跡名古屋城の価値ということですね。史跡名古屋城の価値は、尾張藩のお殿様のお城でしたということやら、現在の名古屋市の基になったということが書いてあるのですが、そこから何故すぐに現在のコンクリートのお城を壊して、木造復元が、その本質的価値を維持・保存することに繋がるということが理解できません。石垣部会や天守閣部会の先生たちは、そのことについてどのように議論されたのか。どういう風におっしゃっているのか。その辺りを明らかにして欲しい。</p>

今日、目の前に座っておられる椅子の席の方は、名古屋市が施主ですよね。計画を立てて、建物を建てて下さいという。そして、竹中さんがそれを請け負ったと。このお二人ですが、こちらは、名古屋市観光文化交流局、非常にややこしい名前だと思うんですが、何故都市計画に関わる、公園ですね、名城公園もありますし、そういう名古屋市の建設に関わる、名古屋市都市計画局かな、そういったところの方はなぜここへ出てこないのか、ずっとお城のことで非常に疑問に思っているんですね。設計の問題も含めて、どうなっているんでしょうかということですね。まあ、他の方の時間もありますから、とりあえずそれだけにします。

3 人目
(中村区)

名古屋は環境意識の高い街で、2010年にCOP10開催の時に会場の近くで私も環境保全の活動をアピールした一人です。それだけに、大量の森林資源を壊すことになるお城の木造化には私は反対です。城の木造化を強行すれば、名古屋は環境破壊都市だと評価されてしまうのではないかと思います。また巨額のお金がかかる上に、市民の多くがやって欲しくないと思っているのに、そういった民意を聞かずに強行すれば、名古屋は民主主義破壊の街だと評価されること間違いありません。そして、今日本では大震災や台風の災害でいまだに多くの方が苦しんでいます。特に東北や、熊本等ですね。それにもかかわらず、名古屋はこんな贅沢な金食い虫なことをすれば、名古屋という街は地域エゴが丸出しの街であると厳しい評価をされる事間違いありません。木造復元を強行すれば、名古屋という街は、魅力アップどころか、大幅なイメージダウンで、名古屋の評価は地に落ちるとしか思えません。名古屋市当局様はどうお考えでしょうか？そして、こんな民意を得ていない、贅沢で、どちらかと言えば下らないこんなお仕事を請け負おうとする竹中さんは建設会社としてのプライドはお持ちなのでしょうか？お金さえ儲かれば何をやっても良いと、そうお考えなのでしょうか？その辺をお聞きしたいです。百歩譲って、名古屋城木造化が良いと思う人が多くなったとしても、私は今は絶対にやって欲しくないと思います。理由は3点あります。理由1、いつ起きてもおかしくない東海・東南海・南海巨大地震が、もし木造化工事途中に起きてしまったら、工事はそこで長期中断か、あるいは再開の目処も立たず、最悪の場合は途中頓挫となってしまいます。そうなると、それまでに手掛けた費用や、労力がすべて水の泡と化してしまうじゃないんでしょうか。

理由その2、竹中工務店さんが理由です。はっきり言わせてもらいますが、技術レベルが低すぎる建設会社です。竹中さんが作られたナゴヤドームは雨漏りしました。それ以降、竹中工務店さんのニックネームは、「雨漏り工務店さん」です。こんな竹中さんに、今の技術でも難しすぎる名古屋城木造化工事をやらせるのは、10年、いや、1,000年早い、と私は言いたい。理由3、河村市長にあります。2年前の木造化市民向け説明会に、私は西区で聞きましたが、出席された河村市長は壇上席で、なんと頬杖をついていました。いったい市民を舐めた横柄な態度の河村市長に、歴史建造物をいじる資格はあるのでしょうか。そして、南京大虐殺が無かったという歴史を正しく評価できない市長には、歴史的建造物をいじる資格は絶対にないはずで、河村市長が言いだしっぺの木造化は一切取りやめにすべき。今までに金シャチ募金で集まったお金は全額熊本市に渡して、熊本城再建に回してあげた方が、名古屋市としての評価は、大幅に高まると私は思っていますが、名古屋市当局様どう思いますか。私の質問は以上です。

舘主幹

(司会・ナゴヤ
魅力向上担当
部)

3名の方からご質問をいただきました。

まず、1人目の方からは、予算面、安全面からの説明がなかったけれども、本当に事業費的、あるいは地震対策を含めた安全対策、大丈夫か、というご質問でした。

2人目の方につきましては、3点ご質問がございました。

1つ目は、いま私どもが説明した内容については、城のなかで説明すれば充分ではないかということ、2つ目は、木造復元することがなぜ、本質的価値につながるのか、その際、有識者の意見はどういったものだったのかということ、3つ目は、本日名古屋市からは、観光文化交流局が出させてもらっていますが、建築関係の部局が、なぜこの場にはいないのか、なぜ観光文化交流局だけで説明するのか、ということでした。

最後の方からのご質問です。数点ございました。まず1つ目といたしましては、震災、災害等で苦しんでいる地域がある中で、復元を進めていいのか、市のイメージダウンではないのか、ということ、あと、竹中工務店さんとして、この事業にどういう認識で進めているのか、ということ。最後に、反対理由を3つ述べられまして、それに対する名古屋市としての見解はどうかということだったと思いますので、まず、名古屋市のほうから、ご回答させていただきたいと思いますのでよろしくお願いたします。

渡邊主幹
(名古屋城総合事務所)

まずお一人目の方からのご質問にお答えしたいと思います。まず、市の税金で建てるのかといったお話だったかと思えます。今回の事業につきましては、原則としては、入場料、名古屋城に来られる方の入場料をベースにして、その入場料に対して、この事業費の支払いをしていこうと、そのように考えているところです。総事業費として500億という金額を想定していますが、原則として入場料収入で賄ってまいりたい、そのように考えているところです。

あと、木造化について、地震に耐えられるのか、というお話をいただいたと思っております。木造化することによって、まずは史実に忠実に復元していくということをまずはベースにして考えているところです。ただ、構造的な観点から、木造の復元をしたときに、今の建築基準法上の耐震性能の同等以上に、それにプラスアルファで何かを実施する必要があるのかということも検討しているところです。そうすることによって現状の規定以上のものにはしていきたい、耐震性能については、現状の法規以上のものにしていきたいと考えているところです。

二人目の方のご質問だったと思えます。名古屋城の価値といったところでお話をいただきました。現状から、今の建物を取り壊して木造化することに対して、価値としてどうなのか、というような話をいただきました。現状の名古屋城天守閣も60年近くたっているところですが、今、木造復元をしていくことによって、当時の天守の使われ方といったものを、十分に理解していただく、例えば、石落としだとか、狭間だとか、当時の櫓といった機能、いわゆる戦時の防衛機能としての建物であった近世の城郭といったことを皆様に観覧していただく、その歴史的な空間を体感していただく、そういったことを体感することによって、現状の特別史跡から、当時の状況を皆様に感じていただくことも、特別史跡の歴史的価値の理解の促進につながるのではないか、と考えているところです。

次に、その復元に対して、有識者は何と言っているのか、という話をいただきました。現状を、天守閣部会、石垣部会の有識者の皆様に、内容等を名古屋市から説明し、復元していくための整備の方向性をご議論いただいているところです。先ほども説明いたしました、名古屋城にはたくさん資料が残っているところです。先ほど、通し柱、管柱、どういった形で復元していくか、どういった形で作られてきたかということ、資料だとか、写真だとか、そ

ういったものをあわせもって、ご議論いただいているところです。資料がたくさんあるといったことが、名古屋城の大きな特徴でもある、そのように考えておりますので、名古屋市としては、有識者の皆様にいろいろと資料をご提示させていただきながら、史実に忠実にどういった復元をしていこうかといったところをご議論していただいているところだと思っておりますので、今後とも有識者の皆様型に、ご意見賜りたい、そのように考えているところだと思います。

都市計画部門、建築の部局についてのお訪ねがありました。観光文化交流局といった部署になりますけども、ある一定の知識を持ったメンバーで体制を組んで、今、取りかかっているところでございます。あとは、竹中工務店さんにも、技術的な協力を得ながら、この事業の計画について、進めているところです。

西野所長
(名古屋城総合事務所)

有識者の意見というところですが、1つ有識者の先生方からは、名古屋城は特別史跡ということでございますので、史跡としての価値が高いです。こういった事業を進めるにあたって、史跡を痛めるといいますか、そういったことのないように、史跡をしっかりと保全しながら、やっていくことが必要であるというご意見をいただいております。それから、今回の事業は復元ということですので、史実に忠実にやっていくことが、価値を高めることにつながる、そういうようなご意見をいただいているところです。

渡邊主幹

あと、3人目の方からのご質問だったかと思えます。震災で苦しんでいる方がいるけれども、名古屋にとって大きなイメージダウンになるのではないかと、といったお話をいただきました。現在、熊本、東北の皆様で苦しんでいる方がおられることは、我々も重々承知しているところです。名古屋市としての木造復元を何とか実施していくことによって、また、こういったことを名古屋でもできるんだということを、ある意味、多くの方にしっていただきながら、名古屋だけでなく、全国としての名古屋城といったものを、是非とも、名古屋の皆様にも愛着をもってもらえるような、また、全国から来ていただいて、こういったお城も木造で出来るんだといったことも、皆様に勇気を与えるという言い方は恐縮ではあるんですけども、そういった形で考えることができるのではないかと、非常に思っているところです。そのためにも、何とか、名古屋城の木造の復元を実施していくということで、みなさまにこ

	<p>ういったものを見ていただく、全国の皆様にみていただくということで、何とか皆様に勇気というか、大変恐縮ですけども、たずさえていくことができればと思っていますところでは。</p>
館主幹	<p>あと、先ほどの反対理由を名古屋市としてどう思われたかという点について、3点ほど、地震が起きてしまったら費用が無駄になるのではないかと、市長のそのときの態度は許せないとか、様々な理由でこの事業に反対だということだけれども、名古屋市としてそれについてどう認識されているのか、ということについてです。</p>
渡邊主幹	<p>先ほどお話いただきました、東海・東南海地震が途中で起きてしまった場合、というお話をいただきました。基本的には大地震が起きてしまったときには、その状況を把握しながらといったことは当然でてくると思います。ただ、名古屋市として、この木造復元事業を進めていくということを思っているところですので、その状況を踏まえながら対応していくということになります、何とか木造復元を実現していきたい、名古屋市としてはそのように考えているところでは。</p> <p>(会場から声あり)</p> <p>放っておいてもといいますか、名古屋城の木造復元が皆様に少しでも勇気になればいいかなとそのように考えているところでございます。</p>
館主幹	<p>続きまして、竹中工務店さんに、この事業への認識についてというご質問がございましたので、竹中さんからご回答をお願いします。</p>
竹中工務店	<p>竹中工務店としても、名古屋市様から出されている名古屋城エリアの全体整備計画、こういったものを、どのようにスパイラルアップさせていくか、という話を聞かせていただきました。やはり、名古屋市民の方にとって、名古屋城の再建というのは、非常に大切なことだという風に考えておまして、確かに、現在もRCの天守閣があるではないかという意見もございますけれども、ご承知のように、耐震基準が非常に危ういと、今日もお話があったように、東海・東南海大地震が起こったときに、RCの天守がどうなるかわからない、つまり、RCの天守がどうなるかわからないということは、特別史跡である石垣にも大きなダメージが起こる可能性がある。やはり、そういったところを根本的に改善するためにはどうしたらいいんだという問いに対して、当社としても是非、世の中のために、名古屋</p>

市の皆様のために、手前どもの総合力を結集して、こういった事業に取り組むべきだという風に判断いたしました。今日の質問の中にもあったと思うんですが、現行基準の耐震安全性、避難、防災、消防設備等、諸々のもの、さらにはバリアフリーをどうしていこうかというようなものを、ベストマッチさせていくという、非常に難しい課題を検討しております。今後、皆様に、有識者の皆様も踏まえ、名古屋市の関係者の皆様も踏まえ、どのような基本設計を進めていくかというところで、当社の総合力を結集して、進めております。是非、実現に向けて、皆様のご協力をお願いしたいと考えております。そういった思いで取り組んでおります。

4 人目
(東区)

保存活用計画の概要を今区役所から借りてきました。内容については少しうろ覚えではありますが。これについて3点質問します。まず、言葉や説明での「文化庁の指導により」ということから説明が始まったのですが、最後に天守閣が木造で復元するという風になっていました。これはこちらと食い違ってないかと思ったので確認ですが、文化庁は、木造で天守を復元しなさいと言っているのかどうか？先ほどの説明ではそう捉えました。私は2年くらい前にあったタウンミーティングの後に文化庁に聞いたら、文化庁は木造で復元するなんてことは言ってないと。それは市民が決めればいいことだと。ただ言えることは、「現在のコンクリートの天守閣も価値があるから、早々に壊すのはいけないよ」というようなことを言っていると聞いています。それで、この場の持ち方を理解できていないのですが、耐震改修で決めていたのを木造に変更するということが市民のみなさんに説明するとなると、違っていたら訂正して欲しいのですが私の理解としては、これを読んでいると耐震改修案が良かったというように、竹中さんはやりたくないとおっしゃいましたけれども、そういうような話があって、具体的にいうと、木造と同じように、絵を描かれて、お金がついて、時間がどうで、これこれこういう理由だからと、やはり木造の方が良いという話に持っていかないと、先ほどから聞いていると、どうも反対の話が出てきてしまうのでなかなか説得力が無いなという風に感じました。仮にですが、今のまま話を進めていくと竹中さんと2月末に基本設計ができてしまうと、そういう契約をしている中で、またそれを市民に対して木造が良いかどうかの話をやるっていうのが非常に疑問で、契約上齟齬があ

る気がしてしょうがないです。

あと2つありますけど、まとめて言っちゃおうと、特別史跡の本質的価値が、史跡の上に復元建物を建てるという風に書いてありますが、世界遺産の考え方からすると、史跡の上に建物は作ってはいけない、レプリカは禁止。これは平城京で大問題になりました。分かりやすく言うと、天守が慶長年間ではなく宝暦ですよ？150年後ですよ？そうすると本丸御殿は檜皮葺で慶長年間じゃないですか。現実的にはありえない形が同時に出てる訳ですよ。これは、歴史というものを観光というもので捻じ曲げた形になってしまう。世界遺産の考え方というのは、レプリカの禁止ってというのは、遺跡の保護という意味もあるのですが、もう一つは、遺跡を遊園地だとか、そういうテーマパークみたいにしちゃいけないという考え方があるのです。だから世界遺産の考え方からすると非常に問題があると思うのですが、その辺りはどうお考えでしょうか？3つ目になりますけども、個人的には大阪城が良いと思っています。大阪城は都市公園です。市民に愛される城にするために入場料は無料で、600円の入場料は天守閣博物館だけで、収支は黒字になっています。質問としては、名古屋市が今、外注としてイベントとか広告代理店にお金を払っていますよね？それがいくらか？赤字になっていると聞いています。2億円だとかそれぐらいか。その赤字に税金がどれだけ投入されているのか。利用すべき市民は入場者の何パーセントになるのか、聞いていると、テーマパークのように建物を作って、二之丸も作っちゃって、ただ遊ぶ場所を作っているだけのような気がしてしょうがなかったので質問しました。

5人目
(緑区)

バリアフリーに関することが聞きたいです。この公共の事業ということで、今のところエレベーターは付けずにチェアリフトの設置を検討中と言っていましたが、今は障害のある人に対する権利というのが保障されてきている中で、国で言えば「バリアフリー法」、愛知県で言えば「人にやさしい街づくり条例」、名古屋市においても「福祉都市環境整備指針」というように作られている中で、なぜエレベーターを付けない方針に進んでいるのか？私がインターネットで見た資料によると、最初の竹中工務店さんは、小さいエレベーターではありますけれど付いていました。でも今は付けないという方針が名古屋市の方から出されているのですがエレベーターを付けないということでどれ

だけ困る人がいるかということをお聞きしたいです。私は7年前に障害者になったのですが、名古屋城に行った時にエレベーターが付いていることに驚きました。エレベーターついているんだなあ、中に入れるんだなあ、それと同時に思ったのが、中に入って見て、一番上の展望台に行けない事にすごく悔しい思いもしました。当然中に入ってみんなと同じように街を見渡せるのかなと思っていて、見れないということが分かって悔しい思いがありました。これからもし新しく建て替えるのであれば、当然、誰もが安心・安全で上まで登れる仕組みにしていきたいと思えます。史実に忠実にと言っていますが、スプリンクラーだって付くだろうし、電気の配線だって見えないようにそこら中に張り巡らされると思うのですが、そこでエレベーターを付けてもそれをカモフラージュにするなんてことはとても簡単なことだと思います。その辺をしっかりと考えて議論してくれると嬉しいと思います。

館主幹

お二人の方からご質問を承りました。まず一人目の方、3点いただいております。保存活用計画についてということで、今回の保存活用計画の中での、天守閣木造復元について、文化庁としての見解、文化庁がどういう形で認識しているのかと、先ほどの方は、文化庁に確認したところ、木造にしろという見解はないと思うんだけど、それについてどういう風な名古屋市の認識なのかと。2点目といたしまして、史跡のなかでの復元の考え方として、特に名古屋城の場合、本丸と天守閣と復元の時期が違うけれども、そうした史跡の中での復元の考え方にかかる本市としての認識。3点目といたしまして、大阪城に関しては天守閣にのみ入場料をとっているけれども、名古屋市がどのくらい、今イベント会社に払っているのか、赤字で税金を投入しているか、どのくらいの税金を投入しているのか、あと市民は入場者の何%くらいを占めているのか、ということでございました。

お二人目の方です。名古屋城の天守閣の木造復元にかかるバリアフリーについて、ということで、名古屋市として今エレベーターを設置しない方針なのかと、エレベーターが付かないということで、非常に困るという方が大勢いるのではないかと思うけれども、それに関する市の認識というのはどういうふう考えているのかと、あと、建て替える

のであれば、いま5階までしか行けなくて、7階までいけない名古屋城ですけれども、是非最上階まで健常者の方と同じような景色を見られるようにしてもらいたいと思うけれども、それについての名古屋市としての考え方はどうか、ということでした。

では、名古屋市のほうからご説明させていただきたいと思います。

西野所長

ご意見いただきまして、ありがとうございます。まず、保存活用計画につきまして、文化庁がどういう見解かということでございますけれども、天守の木造復元につきまして、現時点で文化庁が、木造復元を認めているとか、それがいいというふうにいっているとか、そういうところまでいっているという訳ではございません。文化庁の立場はあくまでも、名古屋市が計画を定めて、その計画について、文化庁のほうでそれを認めて許可をだすかどうか、ということですので、現時点ではまず、名古屋市がしっかりとした計画を文化庁に示していくと、そういう風な段階でございます。そういう中で、名古屋市といたしましては、最初にもお話ししたけれども、優秀提案として竹中工務店さんの案を選びまして、それに基づいて木造復元を進めていくという、そういう予算案が可決されて、それに基づいていま基本協定等を結んですすめておりますので、基本的には名古屋市は木造復元を進めていくという方針を明確にしておきまして、それを今回、保存活用計画の中に明記をし、あくまでもこれは、名古屋市の姿勢として、明記をし、文化庁にも示していくと、そういう風な状況でございます。

それから、時期の問題ですけれども、実際に復元整備をしていくにあたりまして、やはり復元をするには、資料がきちっと整っていて、実際に、史実に忠実に復元できるということが、必要になってまいりますので、私どもとしては、本丸御殿は、本丸御殿について検討したなかで、この時代のこういうものだ。天守については、天守について検討したなかで、復元という観点でいくと、宝暦以降でないと、十分な資料が残っていないということがありますので、宝暦以降でいま考えている。大きな意味でいくと、江戸期の状況を復元して戻していくというふうな観点ですので、本丸御殿と天守の時期がずれるということについては、個々に検討した中で決めていっていると、そういう風に考えております。

それからイベントの話ですけれども、現時点で、名古屋城の、収入支出というのは、大体、拮抗しているという状況で、平成 27 年度については若干、市の支出の持ち出しがありました。28 年度ですと収入のほうが多いと、そういう状況でございます。そういう中で、イベントについても予算を組んで、その中で支出をしております。確かに入場者の中で、名古屋市民の割合が、現時点では、アンケートによると 10%程度というようなこともありまして、私どもといたしましては、より、市民の方々に多く来ていただきたい、そういう風な思いもありまして、いろいろと、来ていただけるようなきっかけになるようなイベントを企画していると、そういうような状況でございます。

6 人目
(東区)

文化庁の指導が何かってことが聞いたかったんで、文化庁が「市民が決めればいい」と言っていたのは僕も聞いているから、そこは同じ。だから、何をどういう指導があって、もう 2 月に竹中さんの基本設計ができている時点で、僕から感じると、3 年前にやれたことを、いまやっているのか分からなかったから、私が憶測で、指導で、もう一遍名古屋市民に、耐震改修案も遡って、木造案とどっちがいいか、ということになったのかなと、そういうふうに、僕は推論、と言いましたけれどもね。それに対して、答えて、もしもそうだとすると、竹中さんとの契約の問題があるんで、どうなっているのかなと、齟齬がありますね、という話を聞いたんですね。だから、文化庁の指導がというのが、そこに出ちゃったから、何だったんだろうなど。これを読んでいると、わかんないんですよ全然。だから、木造天守にしるとは言っていないはずですけど、普通に素直に聞いていると、「文化庁の指導に云々だから、木造天守の整備方針とする」と、主語が、名古屋市が文化庁の人が変わったりするもんだから、そこをはっきりとしたいんで、この会の位置づけも含めて、明確にしてほしい訳です。それから、世界遺産の話もしたけど、理解されてないですけど、竹中さんの答えでもいいですけど、文化庁のほうにこれを通そうと思ったのならば、やっぱり大極殿の話だとか、平城京だとか、大騒ぎになった話があるので、特別史跡の本質的価値は、史跡の上にレプリカを作ることではないんですよ。それはもう世界遺産のなかである。でもその中で、どういう風にして、市民のために公園として、みんなに親しまれる名古屋城にするかというのが、僕は論点だと思うんだけど、こういう都市公園だとか、大阪城でやっ

ているような、市民と一緒に親しまれる城づくりをするという観点がこの中に全くなくて、イベント屋さんをけなすつもりはないんですけれども、テーマパークを作るような感じに受け取れたので、まあざっとしか見てませんけれども、どんどん復元するということは、ディズニーランドが、お客さんが減ると、次から次へと増築していくじゃないですか。それと同じような感じに捉えたんで、そうじゃないような、都市的な話、要するに戦後復興のときに、市民のための鶴舞公園と2大緑地帯として設定したはずなので、そのところをどんどん建物で埋めてっちゃうと、戦後60年前の都市計画と変わっちゃうわけですよ。そういう話をしたかったから、大阪城がいいね、って言ったんです。それが全くないです。この中にその視点が。これを文化庁が受け取ったとするときには、訳のわからない話で、本質的価値、要するに史跡の上にどんどんレプリカ偽物でもいいから楽しめるものを作っちゃえばいいじゃないかという、それを否定する訳ではないですよ、それもあります。それもありますけれども、戦後復興シンボルで、今のお城を残すべきだという人もいるので、それをまとめようと思ったらやっぱり、竹中さん嫌だっておっしゃったから、どこか安井建築設計さんとかに頼んで、耐震設計案も作って、お金と時間を決めて、お金は500億とか300億とかっていう話ですね。時間は5年か7年か知らないですけども、そういうことをきちっと整理しないと、反対意見ばかりでちゃうと全然決着つかないと思うんで、これについて注文をつけた、ということです。

西野所長

文化庁の指導を受けて、ということは、全体に対しては文化庁にご意見も伺いながら、進めてきた。ということでございます。基本的には、保存活用計画には名古屋市の今後の方針、こういうふうに進めるんだと、そういうことについて、ここで書いている。これについて文化庁も、一定の、名古屋市がそういうスタンスにいるということは、理解していると、そういう状況でございます。どんどん復元ということでございますけれども、すべてではなくて、当時の歴史的な風致といいますか、そういったものを感じられるように、我々はしていく、そういうふうにご覧いただきまして、その中で、具体的な復元になるのか、そういったことを、今後検討して決めていくと、そういうようなことで今、保存活用計画の中では、考えているところでございます。

舘主幹	次にバリアフリーについてご質問があったのでよろしく お願いいたします。
渡邊主幹	最後にバリアフリーに関するエレベーター設置について ご質問いただきました。まず、名古屋城の木造復元につき ましては、史実に基づき忠実に復元するといったことを基 本方針としていますことから、外観のみならず、内部空間 も含めた真実性の高い復元を行うという方針を示してお りましたので、まずはエレベーターを設置しないという方 針を進めてまいったところでございます。しかし、その後、 先ほどもご説明させていただきましたが、エレベーターを 設置すべきだというご意見、要望書等もいただいております ので、法ですとか、条例、それから市が設定してござい ます福祉都市環境整備指針、こういったものを踏まえなが ら、あと障害者差別解消法で謳われております合理的配 慮、こういったものも本市としては義務となっております ので、今後も障害者団体の皆様、あるいは高齢者団体の皆 様はじめ、多くの方からのご要望を聞いたうえで、先ほ どもスライドで説明させていただきましたが、そういった意 見を聞きながら、最終的に3月までに、名古屋市として方 針を決定していきたいと考えているところでございます。 以上でございます。

発言者	発言内容
1 人目 (南区)	4つ質問をいたします。最初は施工者竹中さんに、いま、CGを2つ見せていただきましたが、これは竹中さんがプレゼントしてくださったものですか、それとも市の予算で作ったものですか。もちろん市の予算ですよ。これは3人のあとではなく、今そうだと言っただけですか。
舘主幹 (司会・ナゴヤ魅力向上担当部)	すいません。質問はルール通りお願いしたいと思います。
1 人目 (南区)	あ、そうですか。それも答えていただけないんですね。じゃあ予想としてそういうことです。2つ目の竹中さんへの質問です。いまのCGは、残っている実測図に基づくものですね。それでは、竹中さんが、技術提案書で、仮設のそういういろんなものを、取ったり外したりするという提案書を出されていることは、消えたのですか。いろんな設備を隠したり、取り外したりするっていう提案書がでていますが、それはどうしたのですか。それは、あちこち都合のいいときにその案をだすのですか、聞きたいです。市当局に聞きます。舘さん、私はあなたに、大変深い思いがございませぬ。愛している訳ではないです。去年の2月20日、私は、たくさんの署名を、心をこめてあなたが手渡しして、市長に渡すといっ、渡した人間です。舘さんの下の名前も名刺も持っています。ただ、あなたは、経済水道委員会で、市民の反対の声はないと、言ったそうですね。それはなぜですか。それはやはり、市当局で、舘さんが今、観光文化交流局の局長ではないけれども、大変な権威をもってらっしゃるということからすると、あなたが反対意見を認めなかったってことは、新聞社とかマスコミにも影響し、そのあとの議会の議決にも影響したのではないかと、私は大変遺憾に思います。次、もう1つ、この説明会は、何の説明会ですか。お花畑ですか。CGをみてうっとりする訳ですか。私たちの生活はそんなに楽なものではありません。私は、この一週間あまりで、400人くらいの人と対話をしました。そして、「壊すんですか」「どこをですか」「えっ」という人が、本当に多いんです。ということは、市が様々なことを隠しているからです。そして、今の説明会でこの説明会は、市民の合意を形成するということに使わ

	<p>れるとしたら、私は、資料もなく消えていく消えもの、もう消えてしまったCGとか雰囲気、木造ありきに使われるのは御免です。民意を正しく聞いてください。皆は木と他のと何がよいと聞いたら、子どもが木のおもちゃがよいよと言うように木造に丸を付けたかもしれません。根拠は何ですか。</p>
館主幹	<p>すみません、3分を過ぎましたので、そろそろまとめてください。</p>
1人目 (南区)	<p>民意を正しく問い直す必要があると思いますが。それから現天守が素晴らしいもので既に24人乗りのエレベーターが2基あります。そういうものを壊して隠して4人乗りのエレベーターにするかどうか分からないものは実現することはできません。台所で苦しんでいる人がいるのに応接間を作り直す、立て直すといった案は全く認めることはできません。以上です。</p>
2人目 (瑞穂区)	<p>どうやら名古屋市さんは私のことが嫌いらしいのでなかなかあてようとしないので怒っているんですけどまあそれはいいですわ。あとで「ごめん」って言ってくれれば。質問の後でまとめて答えてくれるということでしたが、俺がこう思っているってことだけ確認してもらいたい。</p> <p>一番最初の資料では、丸太という言い方はあれですけど、自然木の状態といいますか、1本の木の状態で作って、エレベーターとか設置して持つのか？ということ竹中さんに聞きたい。</p> <p>市の方になるのか分かりませんが、聞きたいのが、今の名古屋城の建物の中に金シャチのレプリカなどいろいろ入っているのですが、それがどこに行くのか？木造で作り直した時に、後からまた城内に戻すのか分からないけど、お城ができました、皆さんに見せる時には今と同じようにごちゃごちゃと並べますというのであれば、コンクリートのままでも大して変わらないんじゃないか？と思うので、その分を考えて欲しいと思います。</p> <p>これは意見なので、考えますという答えで良いのですが、竹中さんの2本の動画とか、そういった資料を、市の方に貸しているのか、売っているのか知りませんが、その動画を、多くの市民のみなさんに名古屋城の公式から見せていただくことはできるかどうか？ということ。</p> <p>5月に現天守が閉鎖になって、6月に本丸御殿が一般公開されるじゃないですか、5月の天守閣の閉鎖と同じタイミングで本丸御殿の公開を合わせることができなかったの</p>

	<p>か？ということ。そういう風にすれば、春祭り等と合わせて盛り上げることができたんじゃないかなと思ったので閉鎖と公開のタイミングが違う理由を聞きたい。それと、商店街みたいなのが出来る時に市長も呼んで、武将隊も呼んで、今から商店街できます！みたいに盛り上げるように考えて欲しいなと思っています。</p>
<p>3 人目 (北区)</p>	<p>予算計画をちょっと教えていただきたいなと思っています。収入ですね。市の予算と寄付と入場料と、だいたいどのぐらい見込んでいるのかということ。</p> <p>資材の調達について。木造ですけども、どこから調達を予定されているのか。日本全国からか、木曽からか分かりませんが、その辺りのことをアバウトで結構ですので教えていただきたいです。</p>
<p>館主幹</p>	<p>3 人の方からご質問をいただきました。まず 1 人目の方です。竹中さんに対してということで、CGはどういった内容で、どういった予算で作られたのか。そのCGは実測図を基に作られたのか。28年3月の提案時の中に入った様々な設備については今日説明がなかったがどういう状況になっているかということだったかと思います。名古屋市にということで、2月20日に署名を集めて市に渡したけれどもその取り扱いはどうなっているか。市民の反対意見はないと委員会で答えたと聞いたけれどもどういうことになっているのか。この説明会の趣旨はどういうものなのか。民意を改めて聞く必要があると思うが市としてどういう認識かということだったかと思います。</p> <p>2 人目の方については、エレベーターを設置した場合木造天守閣の中で設置することができるのか。木造にした場合現天守閣の様々な展示物はどういった形になるのか。竹中工務店さんが今回動画を最初と終わりの2本流したが今後ホームページなどで公開する予定はあるのか。天守閣の閉鎖時期が5月7日、本丸御殿の公開時期が6月8日という形を出しているが、同じ時期にすれば盛り上げられたのではないか、どうしてこういう時期になったのかということだったかと思います。</p> <p>最後の方からは、寄附を含めた予算の収支状況についてどういう考えか、木材等資材の調達計画についてだったかと思います。</p> <p>まず名古屋市の方から答えさせていただきますが、先ほど署名のことについてでしたので、最初に私から答えさせていただきます。2月20日に署名をいただいたのは間違い</p>

ございません。委員会で私が発言させていただいたが、その際賛成の意見も反対の意見も両方いただいておりますということで発言させていただきました。実際に反対の署名もいただいておりますが、賛成ということで署名とか要望書をいただいていることもございます。そういったことも踏まえて、名古屋市で「市民の声」という広聴制度があるので、広聴制度に基づいて賛成反対意見が何件あるかということの一つの指標として資料として提出させていただいたので、特にそのいただいた署名を隠したということはございませんし、署名をいただいたときに市長にきちんと渡してほしいというお話がありましたので、いただいた署名について、筆数と1枚目につきましては市長に報告させていただきましたので、よろしく願いいたします。

それでは残りの部分についてまず名古屋市からお答えさせていただきます。

渡邊主幹
(名古屋城総合事務所)

この説明会は何のための説明会かといったお話をいただきました。平成29年5月に基本協定、基本設計を締結させていただき、基本設計の内容について詰めてきているところでございます。途中の段階ではあるが、現状どういった状況なのか、先ほどパワーポイントの資料がありましたけれども、色んな名古屋城の資料等だとか、写真だとかありますので、文献等を紐解きながら木造復元を史実に忠実に実施していくためにはどういった形で実施していくのかということ色々と検討してきたところです。今のところ途中の段階ではありますけれども、皆様方に今の状況をご報告することが必要と思ひまして、この会で説明をさせていただいているところです。名古屋城の保存活用計画も現在策定中ではございますので、名古屋城全体としての整備の方向性も皆様にあわせてお話をさせていただいたところです。

現天守について壊すことに対してどうなんだといったお話をいただきました。名古屋市としては現天守自体が持っている課題、例えばコンクリート劣化をしてきているだとか、設備がだいぶ老朽化している、耐震性が伴っていないだとかといった色んな現天守閣の課題を抱えているところです。そういったなかでどういった形で課題を克服していくのかといったなかで、諸条件を克服していく一つの考え方の中で、なかなか現在コンクリートの寿命等ももつことが難しいだとか、名古屋城には色んな沢山の資料が残っ

	<p>ていて、なかなかこれだけ沢山の資料が残っているお城は少ないものですから、そういった資料を活用して木造復元をやっていったらよいのではないかと、いった形で考えてきたところです。</p>
館主幹	<p>あと、もう一度改めて民意を聞いたらどうか、ということがあります。</p>
渡邊主幹	<p>名古屋市としては今お話をさせていただいた、名古屋城の木造復元をきちっとやっていくということで進めていきたいですので、事業としてはこのまま進めていきたいと考えているところでございます。</p>
竹中工務店	<p>最初のご質問でCGについてということでお話を頂戴しました。設計を進めていくうえで、図面だけではなかなかご理解できないところを、CGを作成させていただいて、基本設計のフェーズの中でということでございます。基本設計の予算の中で考えさせていただいているものでございます。史実に忠実に、実測図に基づいたものかというご質問がございました。厳密に申しますと冒頭に見ていただいた3分のCGについてはプロポーザル段階という位置づけのCGですから、手前どもの想像的な数値が沢山入っております。ところが立体的な静止画で見られているものについては、基本設計の中でも詳細に、それぞれの部品情報・データを蓄積してまいりまして、ほぼ実測図に近い状態になっております。ただまだ基本設計段階ということですから、さらに深度を深めていく状況でございます。仮設のお話が少しあったと思うのですが、手前どもの提案書の中に今の技術水準で付けさせていただいたものについても将来的にもっと新しいものが生まれた時には撤去できるという提案をさせていただきました。これは史実に忠実にするためには現代的な色んな要素を付けていくと史実に忠実ではないとおっしゃる方が当然見えると思ひまして、そういったご指摘かと思ひましたけれども。もう一つエレベーターの設置についてのお話がございました。エレベーターの設置についても、建築基準法並びにエレベーター業界と申しますか、エレベーター設置に関わる安全基準が現行のルールで定められています。エレベーターの設置については今後検討して整理していくということです。</p>
館主幹	<p>続いて2人目の方の質問について名古屋市から答えさせていただきます。</p>
渡邊主幹	<p>CG、動画について、ホームページ等で公開することが可</p>

	<p>能なのか、といったお話がありました。動画をどうしていくか検討する必要はありますけれども、ホームページ等で公開できる状況であれば、ぜひとも皆様に見ていただける状況を作ってまいりたいです。5月7日の天守閣の閉鎖と6月8日、同じ時期にすればよいのではないかとといったお話をいただきました。5月7日については、天守閣の石垣の調査等をしており、その中で天守閣の一部、地下階の調査をやっていきたいと思っているところです。調査をするにあたり、お客様が入れなくなる時期が5月の時期になってくるということで、天守閣を事業の流れと共にその時期に閉鎖することを考えているところです。本丸御殿の全体公開については、本丸御殿のスケジュール感にあわせて段取り等を踏まえて6月の形になったということです。実際はうまく合わせられればよいところがあったのかもしれませんが、それぞれの事業での進捗状況にあわせて日にちを考えさせていただいたところです。</p>
館主幹	<p>あと、展示物等はどうなるのか、天守閣に入っている展示物について木造天守閣になった場合にどうなるのかといったご質問がありましたのでお願いします。</p>
西野所長	<p>展示物につきましては、木造復元をしますと、今は博物館相当施設でして中の展示物を見ていただくのですが、本丸御殿も木造で復元しておりますが、要するに建物、江戸時代にあった建物を見ていただくということに非常に意義があるのではないかと。そのお城の役割、機能、そういったことも感じていただけますので。そういう意味では基本的には木造復元した天守閣は天守閣そのものを見ていただいて、その中の物は別途他のところで展示できるように検討してまいります。</p>
館主幹	<p>竹中さんの方へ、エレベーターは木造で持つのかという質問がございましたので、構造的なお話かと思しますので、簡単にご説明いただければと思います。</p>
竹中工務店	<p>今回の木造復元については、史実に忠実に木造復元というところに加えて、建物の耐震性能については現行の建築基準法同等というところで、そういったところに持っていくというところで、現代の付加技術をさらに付加していくところです。エレベーターを設置して問題がないかどうかについて引き続き検討を進めているところです。</p>
館主幹	<p>ありがとうございました。それでは、3人目の方で、予算計画と資材の調達ということでしたので、予算計画については、私のほうから簡単に説明させていただきます。昨年</p>

度ですね、私どものほうから、505億円の事業費がかかりますので、それについてどういう形で賄うのかということで、計画をさせていただきました。基本的には、入場者数で賄う、という形で、他城郭、例えば熊本城、あるいは姫路城、そういった他城郭の入場者数の推移をみまして、それが、名古屋城が天守閣を木造復元した場合にどうなるのか、という形で入場者数を設定させていただきました。昨年度につきましては、大体200万人だったんですが、それが木造復元したあかつきにはですね、360万人くらいの入場者数になるのではないかと、それを今、名古屋城の入場料金が500円なんですが、姫路城等が1,000円に値上げした事例を捉えまして、名古屋城におきましても、木造復元したあかつきには、1,000円にする、という形で入場料金を設定いたしまして、収支計画をたてたところでございます。その場合は、計画上は、税金等を投入せず、入場料で505億円を賄えるという形で、収支計画を立てているところでございますが、改めて、今年度に入りまして、議会等で審議するなかで、今後、市民、マスコミ等外部に説明している際に、詳細な調査が必要ではないかという指摘を受けましたので、今年度改めて、いま現在、収支計画を立てているところでございますが、その計画自体は、3月中には出来上がる予定でございますので、出来上がり次第、HP等で公表する予定にしております。収支計画につきましては、現時点におきましては、税金を投入せず、入場料収入で賄うことになっておりますが、さらなる詳細な調査をしているところでございます。資材の調達につきましては、竹中さんから答えますので、よろしく願いいたします。

竹中工務店

資材の調達なんですけれども、みなさんがご関心があるのが、今回の木造復元に関する木材だと思います。まだ、私ども竹中工務店のほうなんですけれども、契約等させていただいておりませんので、まだ目論見なんですけど、柱についてはヒノキが多く、ほとんどがヒノキになっておりまして、梁はマツを主にした材料、それ以外に仕上げの板等は、ヒノキが多いかと思っております。その中で、ヒノキにつきましては、1つは、文化財を対象にして、長尺の体形のヒノキがいろんなところで伐採されたものを、保管、貯木されている業者さんが、多くお見えであります。そういうものが、全国にかなりの数の業者さんがお見えになりまして、そういったところからまず調達したいと考えておりま

	<p>す。また、それ以外にですね、ヒノキにつきましては、愛知県産材の提供の申し出、岐阜、長野の木曽関係のヒノキ、それから、奈良の吉野のヒノキという形で、各所の有名産地から、このプロジェクトに対して、木材を提供したいという話がでておりました、これから、木材に関しての予算を承認いただきましたら、そういうところと協議の上、調達を進めていきたいと考えております。梁のマツにつきましてはですね、まだ松くい虫の影響がでていない東北地方のほうに、マツ材がございますので、そちらのほうから調達を考えております。</p>
<p>竹中工務店</p>	<p>1つ竹中のほうから修正の回答をさせていただきたいのですが、最初のCGの予算ということで、ご指摘あったんですけれども、まず冒頭に見ていただいたCGはですね、これ実は手前どものプロポーザルのときのCGということでございますから、これは、設計予算の中に入っておりません。手前どもが自主的に作成したという位置づけのものでございまして、後半に見ていただいているCGについては、これは史実に忠実にいろんなものを有識者の先生、名古屋市の関係者の方々、みなさんに確認していただくという設計行為のなかでのCGでございますから、後半のものは設計額のなかに含まれているという位置づけでございます。申し訳ございません。</p>
<p>4人目 (北区)</p>	<p>今日、お話としては総花的な話になっていると思いますが、実質は、どうみても、拙速以外なものでもないなという感じがしています。そういう意味では、500億のお金、22年に木造完成ということですが、市民の声も、さきほど2万人のアンケート、それから広聴制度とありますけれども、多くはまだまだ、この件に関して十分な理解がされていないというのが実態だと思います。その中でなぜ、今日の話から言っても、やるとしても、私は、ある意味では周辺の保存なり、この名古屋城がどういうあれをもっているのか、むしろそういうものがされて、天守閣なり、そういうことをしていくべきではないかという風に思っています。そういう意味では、時期ありきというのがあります。そして、もっと市民の声、むしろ、何度も広聴会を開く、あるいは多くの声を、アンケート2万人では、私は不足だと思っていますので、ある意味では、住民投票まで行うべき課題ではないかなという風に思っています。今日も名古屋市の人、それから具体的にいますけれども北名古屋市の人たちとちょっと話をしていました</p>

が、それだけの金を名古屋市も払って、本当にいくのかと、私たちは、木造化、それから今の名古屋城にも、そんなに魅力を歴史上みても、感じていないというようなことで、これは先ほどの予算計画を含めて、非常に絵にかいた餅ではないかなという風に思っています。そういう意味では、名古屋市がなぜそんなに急ぐのか、ということが一点。それからもう一つ、竹中工務店さんには、史実に基づく、忠実にということを繰り返し、繰り返しおっしゃっていますけれど、これは逆に私たち、他の地域の城をみてもですね、基づけば、階段は急であるとか、そのようなことがあって、バリアフリーというあいまいなところで、具体的に何も決まってないという、エレベーターの問題も含めてですね、史実に基づけば、基づくほど、今の高齢化社会、障がい者の人たちに、これを見てもらうという機会を失うということですから、そういう点では、史実に忠実というのは、逆に今の社会情勢と相反していくということになっていくと思いますので、竹中工務店さんは、バリアフリーを本当にやれるのかやれないのか、という点では、極めて懷疑しており、竹中さんにお聞きしたいです。

5 人目
(北区)

質問としては 4 点あるのですが、私は基本的に賛成の立場というか、もうやるもんだと思っている立場でお話をさせていただきますけれども、まず 1 点目としては、現天守が、解体されるということなんですけれども、解体されたあとの今の天守のものをどうする予定なのかということをお伺いしたい、これは市のほうになるんですかね、例えば壁のものとか瓦とか、内部のそういったものですね、どうするのかなというのが気になっているところなんです、例えば、市民とかに分けていただけるのかとか、お伺いしたいです。2 点目は、観覧エリアについてお話あったんですけども、今のお話ですと 3 階くらいまでだということが作られる予定だという話だったみたいですが、私、姫路城、4 年くらい前に全体改修の時に行ってですね、天空の白鷺っていうのがあったと思うんですけど、あれだと、一番上の方まで見にいけてですね、その高さですとか、間近で鯨のある上のあたりまで見えるような施設に行ったんですけども、そういった形にはならないのかなということが気になったところなので、もしできるのであれば、そういった形でもっと近くでみれるようなものを、この機会しかないので、そういった風にならないのかなというのが気になっているところなので、質問させていただきます。

す。続いて3つ目としては、今ですね、建築の方法として名城公園から橋を渡して棧橋で、そちらからトラックの出入りをするという話があったのですが、こちらを私、いろいろとこういった計画を見ていると、初めて聞いた話でして、私は名城公園の近くに住んでいるので、ちょっと気になっているんですけども、名城公園からどうやってやるのかっていう全く今の話でなくて、名城公園から橋を渡すってことしかでていなかったの、名城公園側をどうするんだっていうことを、ちょっとお願いしたいと思います。おそらく南園側の広場から橋を渡すのかなというくらいの想像しかできないんですけども、こちらかなり大きな話かなと思うので、特に北区にとっては大きな話ですので、ご説明いただきたいと思います。続いて、もう1つは、これはちょっと2年ほど前の説明の時にも私が伺って、市長に質問を投げかけたのですが、これは明確な回答をいただけなかったんですけども、一番心配しているのは、解体後にできなくなったっていうことが、ないようにしていただかなくてはいけないわけですね。例えば市長が変わったとか、材料とか強度がダメだとか、許可がでなかったとか、ということで、できなかったっていうことだけにはならないでもらわなきゃいけないので、これはおそらく、これがはじまったとするならば、市長とかの判断ではなくて、市の事業として、ちゃんと続けていただけるようにしていただかないといけないということなので、そのご意志というんですかね、間違いないですよということは、ちゃんと言明をいただきたいと思います。最後にちょっと、私の意見になっちゃいますけれども、名古屋城は今、エレベーターがあつたりとか、がっかり名所の1つに選ばれているくらいなのですから、私たち若者にとって、これから先の若者にとってもですが、ちゃんと史実に忠実に、作っていただいて、これから誇りをもって伝えていけるものを作っていただきたいと思うので、私としては、近代的な設備は一切不要だと考えておりますので、もしそういったことで反対がでるようであれば、そちらの反対側の意見の方からも計画を出してほしいというくらいに思っていますので、姫路城とか犬山城とか文句を言わないのかというくらいの気持ちでいますので、その辺是非、お願いします。

館主幹

ありがとうございました。2人の方からご意見いただきましたので、まず1人目の方から2つご質問がございました。1つ目といたしまして、市民の理解が得られていない、そういった状況のなかで、なぜ急ぐのかと、その理由についてお聞かせいただきたいと、2つ目といたしまして、史実に忠実、というふうにこだわると、いま高齢化社会が進んでいく中で、バリアフリーなど社会情勢に反するのではないかと、そういったことは大丈夫なのかと、いうことでした。お二人目の方から、4点質問がございました。1つ目が解体されたあと、天守閣の具材をどういう形で活用するのか、2つ目といたしまして、素屋根、たぶん、木造復元中の観覧エリアのことだと思いますが、木造復元中、どうやって、見せていくのかと、姫路城に行ったときに近くまで見れたので、同じような形であればいいなということでしたので、それについての計画はどうなっているのかと、これについては、竹中さんのほうからご説明させていただきます。3点目といたしまして、名城公園ですね、先ほども説明がありましたが、名城公園の南側のほうから、名古屋城の北側のほうに栈橋をかけてやっていくということだけれども、名城公園の工事エリアはどういう風に考えているのかと、いうことで、これについても、竹中さんのほうからご説明させていただきます。最後、4点目といたしまして、天守閣を解体したあとに、事業がストップすると、そういうことはないんですよねと、それについての名古屋市としての見解をお聞かせいただきたいということでございましたので、まず、名古屋市のほうからご回答をお願いしたいと思います。

西野所長
(名古屋城総合事務所)

最初のご質問ですけれども、名古屋城の現在の天守閣、戦争で元々の天守閣が焼けて、それをなんとか再建したいという思いの中で、鉄筋コンクリートで昭和34年度に再建したということで、これについては、我々も大変意義があるものであるという認識があります。ただ、この天守閣を、このままずっと放置する訳にはいかない、先ほども申しましたが、耐震性が低いというふうなこともあります。老朽化が進んでいく、そういうこともございますので、耐震改修をやるということも、1つの選択肢ではございましたけれども、そういう放置できないという中で、1つ、名古屋城は、他のお城と違ってですね、非常に豊富な資料が残っていて、史実に忠実な復元ができるという、であれば、もう1つの選択肢として、史実に忠実に木造復元してはどう

かと、というようなことですね、提案も求めて、優秀提案を選んで、それに基づいて進めていくかどうか、2万人を対象にしたアンケートを聞きながら、名古屋市としてはやはり、この名古屋城天守閣というのは、名古屋城というのはやはり、名古屋ができたおおもとのものですので、みなさんの心の中で非常に大事なものとして、そういうシンボルとして、史実に忠実な木造復元をしていくという、そういう風な考え方として、市議会のほうに議案をださせていただきまして、9か月ご議論をいただいた上、基本設計を進めていくという議決をいただいた。というような過程でございますので、そういう過程のなかで、史実に忠実に木造復元を進めていく、これが今、名古屋市の方針でございますので、基本的には、これで進めていくんだということでございます。バリアフリーにつきましても、竹中さんということでご質問ございましたけれども、そういう史実に忠実にという中で、バリアフリーに対して、今当然そういう要請があるということは我々もよく認識しておりますので、それをどういう風に対応していくかということは、名古屋市の中で現在、検討しているところでございますので、そういう中で名古屋市としての結論を、今後出していく、そういうつもりでございますので、よろしくお願いたします。

舘主幹

2人目の方のご質問についてお願いたします。

渡邊主幹

現在の天守閣を解体された後に天守閣自体何か活用していくのかというお問い合わせだと思っています。昭和34年に再建された際の金の鯨が載っていたりだとか、降ろしていく、どういう風に活用していくのか今後考えていくことだと思っています。決まっているわけではありませんが一つの案として、例えば瓦だとか、部材の一部だとかを展示したりして、昭和34年当時作られてきたものが少しでも残していく、活用していかなければならないということは我々も認識しているところです。どういったお示しするかもあわせて検討していきたいと考えています。

解体後に事業が中止にならないように、大丈夫なのかといったお話をいただいたかと思います。市側としては名古屋城全体の方針を決める保存活用計画を現在策定中でございます。天守閣については木造で復元を進めていく、といった表記をさせていただいているところです。保存活用計画は今後どう名古屋城を整備していくかという方針となるので、市側としてはその計画に基づいて整備していくと

	<p>考えていくところですので、事業が変わることはないと考えています。</p>
竹中工務店	<p>素屋根の見学者スペースの件で、天空から見られるような、というご質問がありました。先ほどのスライドで説明したときは2階と3階の見学者スペースの2枚だけをお示ししましたが、5階にも見学スペースがございます。2階が天守のほぼ1階の高さ、3階が天守のほぼ4階の高さ、5階は天守の屋根の最上部とほぼ同レベル、金鯪くらいの高さ、5階の見学スペースも計画しておりますが、パースでお示ししなかったところ申し訳ございません。木造復元のパースをちょっと意識しすぎまして、木造の工事が見られる階だけをお示ししてしまったということでご了解いただければと思います。</p>
竹中工務店	<p>工事につきまして、基本的には名城公園内の道路を使わせていただき、そこから南遊園のグラウンドを工事用のヤードとして借用させていただき、そこをベースにしてお堀を越えて、天守閣の北側に栈橋をかけて、そこから現状の天守の解体等様々な工事をさせていただくことになっております。</p>
6人目	<p>この説明会をやっているのは名古屋市全体で5箇所でしょ？区は16区あるのです。ですから、遠くから来ている人もいるし、寒い夜に来てるわけです。さっき見ていたらまだ何人か手を上げてて、発言できていない人がいるわけです。申し訳ないけど説明が長い。もう少し説明を省いて、みんなが発言できるような、そういう会の進め方をして下さい。だからまだ意見を言っていない人は発言させてあげて下さい。お願いします。</p>
館主幹	<p>すみません、今回そういった方のために私どもといたしましてはアンケートの中でご質問ご意見を書いていただいて、内容についてはきちんとホームページ等で公表させていただきたいと考えております。アンケートにつきましては、出口で回収させていただきますので、ご協力お願いいたします。本日はお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございました。</p>

発言者	発言内容
1 人目 (千種区)	<p>ずばり申し上げますと、こんな馬鹿なことはやめなさい。予算と資源の無駄使い。利息と管理費を含めると1000億円近くなるのか？この借金を我々の子孫が払うのです。馬鹿なことはやめて欲しい。</p> <p>バリアフリーの問題。56度？だか57度だかの階段ですが、これいったい誰が登れるんですか？こんなものを作って登れないじゃないですか？増してや下りは事故続出ですよ？だから、史実に忠実なものなんか出きっこないんです。ということは、現在のものを耐震改修して持たせれば良いんですよ。あなた達はね、耐震改修は40年しか持たないというド嘘をついておりますが、大阪城は100年持つと言っています。そういう嘘をついてまで市民をだまして、河村さんはこれを作りたいと？こんな馬鹿な話はありません。それからもっと大事なことは、文化庁の許可が下りる前に現天守を解体することはいけません。万が一、許可が下りなかったら、永久に名古屋城に天守閣が無くなることになる。この責任をいったいどうやって取るのか？河村さんに、どんな責任を取るのか聞かせてもらいたい。それから当局も一蓮托生ですよ。現在の文化庁の動向は何と言っているか？これを詳細に説明して下さい。以上です。</p>
2 人目	<p>名古屋は行きたくない街のダントツの No1 と。まあ情けないことですね。それは何故か？それは名古屋に魅力が無いと。私は魅力はあると思いますけど。そういうものをアピールしていく上ではやはり今でも、名古屋城というのは、熱田神宮とか、東山総合公園とかいろいろありますけど、それに比べてダントツで外国人も来ています。是非この魅力をさらに上げるために、本物の名古屋城天守閣を作って欲しいと思います。そして、どうすれば100年後には国宝になる可能性があるのか？また、国宝になるためには何が必要なのか？その辺のことも考えておられるのかどうか？をお聞きしたいです。本物の天守閣を作って下さい。</p>
3 人目 (名東区)	<p>現在、石垣部会の活動が中断しておりますが、これは2月の末までにできるんでしょうか？石垣の調査を。契約では基本設計は2月までですよ？石垣の調査が間に合わな</p>

い場合はいつまでに完了するんですかね？基本設計を完了させるには、エレベーター設置の有無を認める必要があるのか？ないのか？とか。お答えいただきたいと思います。名古屋市はエレベーター設置について、3月中に方針を定めると言っていますが、これもやはり、基本設計は2月までなんですよ？いったいどうなっているのかなど。これ必要なのではないかと思うのですが、いかがなものかと。

お願いだけ聞いて。先ほど言われたように階段ですが、未だに急な階段を「おんぶして登ってもらえばいいがや」と言っとる人がおるんですけど、これは怪我した時に誰が責任を取るんですか？そういうこともきちんとやらないで、いい加減な事を言わないように上司の方に言って下さい。ほんまもんの天守閣と言うとるけど、名古屋市のみなさん、これはほんまもんの天守閣ができるんですか？レプリカなんですか？どちらなんですか？白黒つけて下さい。お願いします。

舘主幹
(司会・ナゴヤ
魅力向上担当
部)

質問項目は2項目でお願いします。3項目以上ある方はアンケートに記入していただければと思います。私どものほうでアンケートについてお答えをしかるのちホームページ等で公表させていただきたいと思いますのでご協力をよろしくお願いいたします。最初の方から、天守閣木造復元は止めるべきだ、耐震改修すればよいと、文化庁の許可が下りるまで壊してはならないということについて、名古屋市の認識と、文化庁の現時点での天守閣木造復元に関する見解を教えて欲しいとのことでした。2人目の方から、名古屋市の魅力を向上させるためにも名古屋城天守閣木造復元はいいけれども、どうすれば国宝となっていくのか、名古屋市の見解を聞かせて欲しいということでした。最後の方から、石垣部会は現在中断しているけれども、本当に調査は2月までに終わるのか、設計についても2月までだけれども、設計が間に合うのか聞かせてもらいたい、2点目として当然基本設計の中でエレベーターについても関係すると思うが、設計が2月に間に合うのか名古屋市としての見解を聞かせて欲しいとのことでした。

渡邊主幹
(名古屋城総
合事務所)

1人目の方からいただいた内容について、名古屋市としては、現状、天守閣自体が抱えている課題があります。天守閣が建てられてから約60年弱の年月が経っており、天守閣自体の老朽化に伴って、設備の老朽化だとか耐震化の確保といった課題があります。それに向けて耐震改修並びに

木造復元といったことをどうしたらいいかご議論いただき、2万人アンケートも含めながら、名古屋市の方向性として天守閣の木造復元をしていく、また名古屋城が豊富な資料が残っており、総合的に木造復元を進めさせていただいているところがございます。文化庁の許可が出る前に解体してはいけないというお話がありました。現天守閣の取り壊しには当然文化庁の現状変更許可を得てから取り壊しを進めていく形となります。先ほどのパワーポイントにもありましたが、史実を紐解きながら、史実に忠実な名古屋城はどういった形なのかを確認・検証をしているところです。そういったところの情報提供をさせていただきながら、名古屋城としての在り方を今後文化庁とも相談しながら進めていきたいと考えているところです。2人目の方のお話だったと思いますが、どうすれば国宝になっていくことができるのか、そういったことを何か考えているのかというお話をいただきました。実際こういった形でいけば国宝になるといったことについては、申し訳ありません、現状では分かりかねるところが出てくるのですけれども、名古屋市としては、現状の名古屋城というものをきちっと資料等を紐解きながら史実に忠実に復元していくことをまずはきちっと作りこみたいと考えています。そういったことをすることによって、今後何年先になるかはわかりませんが、市民の皆様にあふれる愛着の持てる名古屋城としていき、そのときに例えば文化財になるのか国宝になるのかということはあると思いますが、そういったことになっていけばいいなと思っております。3人目の方から、石垣部会がストップしているけれども、調査の方がどうなっているのかといったお話だったと思います。名古屋市といたしましては、石垣部会を早急に開催し、石垣の調査を早急に始めてまいりたいと考えております。石垣調査を至急に進めていくことによって、基本設計を2月末で終えていけるように努力してまいりたいと考えております。基本設計のなかでエレベーターに関してお話をいただきました。エレベーターの方針は3月末に決定していくという話があったけれども、基本設計は2月末までであり、エレベーターの計画はどのような形になっているのかといったお話だったかと思っております。基本設計の段階では、天守閣の昇降に関して複数案の検討を行う段階までしていきたいと考えています。文化庁のお話については、名古屋市から市が調べている情報をお示しし、中身について確認をしていただける状況に持

	<p>っていきたいと考えているところです。</p>
<p>西野所長 (名古屋城総合事務所)</p>	<p>文化庁に関しては、私どもが資料をそろえて、最終的には審議会にかけていただいて、文化庁が許可を出す出さないの判断をされます。私どもは資料をそろえて適宜文化庁に出しているところですので、現時点で文化庁がどういう風に判断をしているということはないということでございます。</p>
<p>4人目 (千種区)</p>	<p>今ある天守閣は、戦争で焼けた天守閣を、その時の市民が是非もう一度復元したいということで、寄付を募ってそれで建てられたわけです。前日、私も見てきましたが、まだ丁寧に使われていて、床は板で出来て、それで塵ひとつ無くちゃんと守られています。その天守閣に寄付した人たちの志はどうすればよろしいのでしょうか？それをみなさんにもっと普及して、もっと広く知らしめて、それで大切にするようにするのが名古屋市としての志じゃないかと思うのですが、その辺はどうでしょうか？文化庁が許可しないのに、なぜ5月7日から入場禁止にするのか？それが分かりません。</p>
<p>5人目 (北区)</p>	<p>16日の西区の説明の時にもご指摘しましたが、いったい誰が名古屋城の天守を木造化すると決めたのですか？今、2万人アンケートと言われましたが、現在の鉄筋コンクリートの天守閣は耐震改修をしても40年しか持たないという風な説明がありました。耐震改修というのは、建物を長寿命化する工事ではありません。耐震改修と同時に長寿命化、脱酸素工事をすれば大阪城のように100年持つという風に言っているわけですよ。2万人アンケートにおいて、この長寿命化工事が選択肢として欠落している。こういった欠落した片手落ちのアンケートにおいても、木造復元の意向は過半数を得ていないじゃないですか。長い間持てば良いというような意見はあったが、2020年に木造化しろというのは2割もない。そもそも、2万人に送って7000人しか回答が返ってきていないわけだから、市民の民意を得ているとは言えない。また、今年の市長選において、中日新聞のアンケートに有権者が回答した内の6割の方は、市長選挙にこの木造化の案は入れないと回答している。名古屋市民にとっては、名古屋城の木造化というのは、市政の様々な課題の内の一つでしかないのです。そして、名古屋市民が明確に名古屋城を木造化して欲しいと言ったためしは今まで無い。あるなら示していただきたい。先ほどもあったように、昭和34年当時の名古屋市民</p>

が是非再建して欲しいと、戦災の悲しみから復興する中で、名古屋市民の寄付によって出来上がったのが今の鉄骨鉄筋コンクリートの名古屋城です。この再建の様子はNHKのプロジェクトXにも取り上げられている。鶴舞図書館にも収蔵されています。それを見れば、当時の建設した関係者が、この城は名古屋市民の魂の城だと、涙を流して話していらっしゃる。その名古屋市民の魂の城を何故壊さなければいけないんだ。是非、このわけの分からない木造復元、レプリカが国宝になった試しはない。レプリカなんです。先ほど、史実に忠実と言ったが、釘に関しては何の言及も無いが、実は釘は本物があったんだ。けどそれは散逸している。そうした散逸遺物を集めて作るのが復元なんだが、今回は全く違う。新たな材料を得てやっている。これはレプリカです。そして、レプリカは国宝にはならない。こういったわけの分からない木造復元ではなく、名古屋市民の魂の城を守っていただきたいと、そう思うしだいでありませう。

6 人目
(千種区)

せつかく民主的な手続きを踏まえてこの事業を計画されたのではないかと。と言いますのは、やはり名古屋の有権者の大多数のみなさんがこの事業には賛成しているのではないかと。ただ、少数意見も尊重するという事は大事な事だと思います。先回の市長でも候補者が、再建ということを出して、そして有権者の方たちが今の市長を選んでいるという事を考えていただくとこれが一番民主的ではないかと。ただ少数意見も尊重するという事で、このような形でやることは非常に良いことだと私は思っております。決められたことは速やかに実行して実現していただきたいと思っておりますので、速やかにやって下さい。

館主幹

3名の方からご意見がありました。まず1人目の方は、現在の天守閣については戦災復興の中で寄付を募って建てたと、そういった人達の思いをどうするのか、大切にすべきではないのか、名古屋市はどう考えているのかということです。5月7日から天守閣を入場禁止すると聞いたが、なぜ文化庁の許可がないのに入場禁止するのかというご質問でした。2人目の方について、天守閣木造復元をするということについて誰が決めたのか、名古屋市としては2万人アンケート等を理由にするけれどもアンケートについても色々問題があった、民意を得たとは思えないので、市民は天守閣木造復元を求めているのではないかと、今の

天守閣を再建した市民の思いは非常に重い、壊すことはあってはならない、それに対して市はどう考えるのかということでした。最後の方はご意見として、この前の市長選を踏まえると民意としては一定程度手続きを踏んでいるのではないかと、できるだけ早く天守閣木造復元を実現して欲しいという想いを聞かせていただきました。名古屋市の方からお願いします。

西野所長
(名古屋城総合事務所)

現在の天守閣が戦災で、それまで国宝として残っていた天守閣が燃えてしまって、天守台だけが残って非常に寂しい形になっていた。それを何とかもう一度取り戻そうという市民の熱い思いで今の天守閣が再建されたという風に我々も考えておりました、今の天守閣の価値というのは非常に高いのではないかと。そういう意味で今回木造復元しても、そういう天守閣の記憶・記録というものを我々はしっかりと残していきたいという風に考えております。今の天守閣は確かにそういう価値のあるものですが、先ほども申しましたように課題がございます。それは老朽化や耐震性が低いということと、このまま放置することはできないという状況がありました。耐震改修するのか、木造復元をするのかという判断のなかで、名古屋市として木造復元をしていくという判断で今事業を進めているところです。しかし木造復元をするにあたって、戦災で燃えてしまった天守を今度は昔から残された大切な資料に基づいて史実に忠実に復元をし、より燃えてしまった天守閣の形、外だけではなく内部も含めてそういう形にすることによって、元々名古屋の基になった名古屋城の天守というものを市民の手でよみがえらせたのだということ、そして市民の心のよりどころになる天守をしっかりとつくっていききたいのだということ、そういうものを史実に忠実に再建したのだということとを広く世界に向かってアピールする、そういう風なものにしていききたいという考えで今我々は事業を進めているところでございます。入場禁止についてですが、多くの方が名古屋城に訪れ、旅行社を通じて来られる方もたくさんいらっしゃいます。私どもが事業を進める中で、ご指摘のとおりまだ文化庁の許可、いわゆる石垣を実際に触って調査をする許可をいただいておりますが、今の工程からいくと5月にはそういう段階に入る可能性がありますので、旅行社とかそういった関係を考えてみると、一定の期間をおいて告知をしないとご迷惑をおかけすることになりますので、私どもとしては5月に

	<p>閉めざるを得ない可能性が出てきましたので、早めに5月7日と決めて告知をさせていただいたと、そういった考え方でございます。2人目の方のご質問については、天守閣木造復元につきましては、2万人アンケートなども参考にしながら名古屋市が決めて、議会にも議案として提出させていただいたというものでございます。そういう経過の中で決まってきたものでございます。長寿命化の話がございしますが、大阪城が100年もつかどうかについては立証されているものではないという風に認識しております。私も長寿命化については行って何年持つか分からないという風なものにはなかなか取り組めないという考え方の中で、天守閣の木造復元かあるいは耐震改修かということで検討し今の結論に至っているものでございます。これから木造復元されたものについてはしっかりしたメンテナンスをして何百年かもたせていきたいと考えております。</p>
<p>7人目</p>	<p>文化庁の話がでました。2年前のタウンミーティングで河村さんが「文化庁は木造復元に賛成しとる」と言っていた記憶があります。でも、違うんです。文化庁は、今の天守は、「外観は昭和の実測図に基づいて建てられているので価値がある」と。それから耐震補強でなく木造化を選ぶんだったら、市民の賛同が得られるのか？十分に考慮せずに解体して禍根を残すことがないか？という事を言っていました。市長さんが言ってることとずいぶん違うんですね。価値がある今の天守を市民の合意無く解体してはいけません、十分に考えなさい、とすごく良いことを言っています。だけど、なんで市はこのことを市民にちゃんと伝えていないんですか？隠しているんじゃないんですか？いろいろな回答がありましたが、エレベーターは検討中、資金計画も検討中、検討中が多過ぎて、名古屋市の原案が何か分からない。竹中工務店の作られた案は、名古屋市の原案じゃないんですか？それとも変わるんですか？もし、変わるんだったら、再度こういった市民向け説明会を、ちゃんと16区でやって下さい。5区だけじゃなくて。そういう考えはありますか？どうですか？</p>
<p>8人目 (守山区)</p>	<p>バリアフリーの観点から、エレベーターは付けて欲しい。やっぱり車椅子の人が利用できるようにするためです。</p>
<p>9人目 (東区)</p>	<p>より良いものを作っていただくという所で、竹中さんがいらっしゃるのでお聞きしたいのですが私たちは今、公共事業をお願いしている立場から言うと、株主ではないですけどステークホルダーという立場からちょっとだけお伺い</p>

したいです。実際にコンクリートじゃなくて木造で作りますので、竹中さんは史実に忠実ということで、木曾のヒノキだとか、長い材木とか、どれぐらい目処がついていくぐらいの規模で調達できるのか？工期が延びていく事によって貯蔵していく場所のコストやなんかがかさむと思うのですが、企業コンプライアンスとして、いわゆる大企業には不正がいっぱいあって、捏造だとか、数字の誤魔化しがありますが、忠実に再現するための材木っていうのは、505億円の予算で工事して今の状況ですと工期が遅れるようですが、その予算の中で確実に収まるのでしょうか？収まらなかった場合は市に対して損害を請求される予定なのでしょうか？お聞きしたいです。

市の方には、これだけのものをパンフレットの中で、募金をお願いしますというのが出てまして、去年の春に、募金をする集会に参加して、その集会を見ていて思ったのですがフロア発言で『須田寛（すだひろし）』という JR 東海の前社長さんが、「名古屋城だけには、財界は、木造化にはお金は出せない」と。その代わり、栄も含めて地域を開発しろ、と言ったらすぐにこの間の市議会で名駅だけの栄だけのっていうのが容積率1300%で、新宿の副都心を名古屋に2つ作るような勢いで再開発するみたいですが、私の地域のところでも、木が切られ始めました。言いたいことは何かというところまでできるかどうか分からないのに募金を集めるというのは一旦中止しませんか？という事です。私の知り合いは募金を出して、こんな事業計画なのかって見えてくる度に返還して欲しいと言っています。退職金の中からお金を出したらいいのですが。だから、返還もひとつの方法としてしなきゃいけないと思います。待ったをかけるか、返還の手続きを公表して欲しい。そういうきちんとした透明性というのはそこに確保されると思うので一度ご検討いただきたいと思います。

舘主幹

3人の方にご意見をいただきました。1人目の方について、文化庁の見解ということで、文化庁は木造復元についてどう考えているのかという中で、現天守閣について非常に評価していて、市民に十分説明し理解をしていただいたうえで進めていかなければならないと発言しているのではないかと聞いているけれども、こういったことが事実であれば、きちんと市民に伝えるべきではないかということでした。2つ目の質問として、エレベーターや資金計画など様々なものが検討中で市の原案が分からないと、竹中工務

	<p>店の案と異なるのであれば、改めて名古屋市の原案を説明するべきではないかと、それについてどう考えているのかということでした。2人目の方はご意見として、バリアフリー対策としてはぜひエレベーターを付けて欲しいということでした。最後の方は、竹中工務店へ材木の目途がどのくらいついていて、どのくらいの金額で調達する見込みなのか、工期が遅れた場合 505 億円の中で収まる予定なのか、そのあたりの見解を聞かせて欲しいということでした。名古屋市に対しては、現計画がどうなるか分からない、そういった中では募金の募集を中止すべきではないかと思うがどうかということでした。まず名古屋市からお願いします。</p>
<p>渡邊主幹</p>	<p>まず 1 人目の方からのご質問がございます。文化庁は現天守閣の価値についてどのような考え方を持っているのかといったところについて、色々お聞きする必要があるのではないかとということでした。木造復元をしていく中で、資料を作成し提出しているところです。文化庁から耐震改修でなければいけないだとか、木造復元をしていってもよいだとかについて我々の方が言及されているところはありません。名古屋市としては木造復元をしていくなかで資料を着々と作って、それに対して文化庁に資料を提出しご相談をさせていただいているところです。エレベーターや資金計画について検討中というお話について、内容が変わるのであれば色々皆様にお話していく必要があるのではないかといたしてお話をいただきました。基本的には名古屋城天守閣の木造復元については、資料があるので史実に忠実にやっていくというのが大前提です。その中で現代の要素にあわせた、史実に忠実に復元していくにあたって、ある一定の付加要素として付けていく必要があるのか、付加要素についてプロポーザルの段階で竹中工務店さんから提案をいただいているところです。名古屋市としては、基本的には史実に忠実に復元していくのが大前提だと考えております。</p>
<p>竹中工務店</p>	<p>木材についてですが、弊社としてはこのプロジェクトに応募するときに木材関係の協力会社にヒアリングをし、そのなかで国産材を中心に材料を集めさせていただき、このプロジェクトを完成させることができるのではないかとというある確証をもってこのプロジェクトに参加させていただきました。中身については当時提案書についてはこのような形で書いてありますので見ていただければと思いま</p>

	<p>す。木材について名古屋市と調達契約について契約をしている状況ではありませんので、色々確認をしている状況ですが、木材の関係の方からは名古屋城を木造復元するならばひともうちの地方の山に生えている木を使ってほしいとか色んなお話もたくさんいただいているので、実際に調達できる段階になったら早い段階で調達の可能性が見えてくるのではないかと考えております。木曽ヒノキについては一部長野県・岐阜県の裏木曾あたりから引き合いが来ておりますけれども、日本全国から集めたいと考えております。</p>
渡邊主幹	<p>すみません、先ほどの件、エレベーターの検討中だとかそういう内容について竹中工務店さんからの案から変わるのであれば16区で色々説明する必要があるのではないかとということについて、史実に忠実に復元していくのが大前提ですので、それに何かしら付加要素が必要であれば付加要素を付けていくものであり、現在としては基本的には竹中工務店さんの案から変わるものではないと想定していますが、付加要素については現在検討しているところでございます。</p>
西野所長	<p>竹中工務店さんの案に基づいて進めてまいります。今後今日のように進捗状況についてご説明させていただく機会、こういった形でもたせていただくかはすぐにはわかりませんが、何らかの形ではもたせていただきたいと考えております。</p>
渡邊主幹	<p>募金についてですが、名古屋市についてはこの事業について進めていきたいと考えており、引き続きご協力をいただけたらと考えております。</p>
舘主幹	<p>基本的には募金はいったんしていただくと返還できない形になっておりますので、手続き的には難しい状況です。私どもとしては、先ほど渡邊が説明させていただきましたが、しっかり天守閣木造復元事業を進めていただきたいと考えておりますので、ご理解をいただければと思います。</p>
7人目	<p>付加なにか？を付けたらどうかどうのこうのは良く分かりません。エレベーターに関しては障害者の方も含めて切実な問題でしょ？それをどうするか？原案には無いわけですから、新しく出てきたときには違ってくるかもしれないので、というような事も含めて、新たに説明会をやりたいということをお願いしたわけですが、その答弁がなかったので、もう一度聞きますが、答えて下さい。</p>
西野所長	<p>エレベーターにつきましては、元々竹中工務店の提案の中</p>

	<p>では史実に忠実につくるなかで 4 人乗り程度のエレベーターを設けることもできるとの提案がございました。名古屋市としてはそういった提案も含めながら実際にどうしていくのかということについて現在検討しております。障害者団体や高齢者団体の方々のご意見を聞いたり、学識経験者のご意見も聞いたりしながら検討をしております。その際にどういった手続きで決めていくかについてはまだ申し上げられる状態ではありませんけれども、そういったご意見を受けながら検討しているところでございます。</p>
<p>8 人目 (昭和区)</p>	<p>竹中工務店さんがエレベーター4 人乗りが設計上可能だとおっしゃったと、名古屋市の方が言っていましたがこの4人乗りというのは、車椅子の方を前提とした4人乗りでしょうか？それとも、普通の方が4人乗れる4人乗りでしょうか？住宅用のエレベーターでは、3人～4人乗りの木造エレベーターが出来ておりますのでその点をハッキリさせておいていただきたいなと思います。</p>
<p>竹中工務店</p>	<p>提案の時に、まず実際の名古屋城の木造の加工を調べ、エレベーターのシャフトをとれる寸法を調べ、そこにとりつく最大のエレベーターを各メーカーのカタログから検証し、メーカーにも問い合わせ、4人乗りのエレベーターがつくことは検証いたしました。それが車いす用4人乗りではなくて、普通4人乗りですが、手動式の車いすであれば入ることまで確認しております。</p>

発言者	発言内容
<p>1 人目 (東区)</p>	<p>竹中工務店への質問です。基本設計上、名古屋市からの要望により現天守閣のケーソン基礎を活用するかどうかを考慮に入れる、としていましたが、ケーソン基礎の活用の有無は、いつの時点で判断する予定なのですか？現在の石垣基礎調査でもケーソン基礎のボーリングはしておらず、今年5月7日以降行う予定の石垣調査でもケーソン基礎のボーリングをしないことになっていると、いう風に私は理解しております。これで基本設計が完成するのですか？実施設計もできますか？しかも、名古屋市は、現コンクリート天守が40年しか持たない長寿命化しても100年持つかどうかは分からないとしてますが、ケーソン基礎は何年持たせる気ですか？おかしくないでしょうか？</p> <p>名古屋市に対しての質問です。去年の12月25日に名古屋市議会経済水道委員会で館主幹は年400万人入れようとすると、最大1日25000人来る。最高、1時間で3000人～3500人来るという風に言われました。しかし、ピーク時に木造天守閣には最大、1時間で1500人しか登れないという風に館主幹は言われました。せっかく名古屋城の敷地にお金を払って入っても、木造天守閣に登れない残りの1500人はどうすれば宜しいのでしょうか？これが50年も続くという計算です。せっかく名古屋城に行っても天守閣に登れないなら、誰が全世界から名古屋城を見に来るのでしょうか？現在、調査業務委託を2月末までにして、入場者見込みや収支計画を予測させていますが昨年3月21日に市長は、仮に収支が悪くなくても必ず推進すべきもの、と発言し、赤字を覚悟されてるようにも思えます。実際問題、今月10日に公開された財政局査定では実施設計予算等、10億4100万円は、1円も認められていません。財政局は名古屋天守閣木造化に明確に反対しているという風に理解しております。現在の予測通りに来場者がいっぱい来たら、半分は天守閣に登れません、予想以下であれば大赤字になります。具体的な数字を考えると計画自体非常に矛盾するのではないのでしょうか？外から見ただけであれば現天守閣で十分ではないですか？赤字は結局、市民の負担になるのではないのでしょうか？赤字をずっと垂れ流すのであれば、数百年と言わず途中で取り壊しになる可</p>

能性もあるのではないのでしょうか？今日会場の方を見てみると40人ぐらいしか来ておりません。名古屋市民に関心を持たれてない、これでどうやって360万人も50年間続けるのか？そこをお尋ね致します。

2人目
(千種区)

今日の質問や説明を聞いていても、十分に理解ができません。詳細なことについて、手持ちの資料としては私たちに何も渡されておりません。ホームページを見ろということなのかもしれませんが、そういう説明の仕方では市民の理解はどうしても得られないと思います。しかも、今まで何回かやられてきて、今日が最後だという日程になっていて、今後またやられるかは知りませんが、今までの会場でそういう質問が出て、それに対して名古屋市はどういう回答をしたのか？ということも全く説明がない。これは非常に不親切だと思います。何故説明をされないのか？ということをご質問したいです。しかも、この計画については完成が平成34年12月という風に後ろだけ切っておりますよね？完成の期限を切るということは、一定の目標は必要かもしれませんが、非常に大きな問題点が出てくる。今のバリアフリーの説明でも、まだ3月までに計画・方向を定めるといってただけで何も決まってない。その段階で詳細設計もできるわけではないし、市民の理解も得られるわけでもないし、それで着工ができるのか？という点でも非常に大きな疑問があります。木造は1000年持つという風に言われたようですが、木造は1000年持って、コンクリートは40年しか持たないと。これもちょっと理解ができません。木造を1000年維持するためには、それなりの手入れが必要になってくると思います。コンクリートでも同じように、どれだけの手入れをするかということによって持つという事が決まってくると思います。それから、木造ですよ？本丸御殿も本丸も、戦災によって焼失してしまいました。今後、1000年間名古屋が、まったくそういうものと無関係に存在できるのかどうかという事も検討の必要があると思います。再び名古屋が戦火におかされないような、そういう取り組みというものが、名古屋市政として、方向としてきちんと取り組むということが宣言されなければいけない。そういうものと合わせていかなければいけない。それは知らない、それはあまりやらないで、1000年持つ本丸御殿というのは非常に矛盾した考え方だと思います。そして、先ほどの説明の中でも、石垣とか、遺構を守るとか、非常に抽象的ですよ？具体的にどうい

	<p>う風に守るのか？行政さんの言い方は、説明は非常に抽象的で、方向性だけはキレイだけでも具体的なことが何も決まってないということでは、それはやらないことと同じなんですよ。それをほんとうにやるのなら、どういう保存・修復をしていくのか、守っていくのか、すべて明らかにしていただいて市民に示すべきだと思います。</p>
<p>3人目 (南区)</p>	<p>さきほど詳細な説明を竹中の人からやってもらったんだけど、あれは本当にできるんですか？ああやって宣伝するということは、あのまま作られるようなイメージを持ちちゃうでしょ？あれねえ、できないですよ。ひとつは外材を使うということはもう決まっているでしょ？木拾いの中で予算的に。全部、桧と松とケヤキと樫で作るんですか？それから地震対策の問題として大丈夫なんですか？だいたい壁の中に耐力壁を作ることにはなると思うんだけど、ああゆうもので説明して、実際は違うものを作るというのは詐欺ですよ。こんないい加減な説明をやっちゃダメですよ。ちゃんとハイブリットにするのか、どうなのか。あれだったら昔のまま、調査したことは正しいけれども、今度できるものがあれと同じものを作るみたいなことを思わせるようなことをやる、というのは大間違いですよ。市民をなめてます。</p>
<p>舘主幹 (司会・ナゴヤ魅力向上担当部)</p>	<p>1人目の方から、竹中工務店に、ケーソン基礎を使えるかどうかの調査はいつ行うのか、ケーソンは何年持つと考えているのか、2つ目について25000人と委員会で答弁したがそれについてどう考えているのか、についてでした。</p> <p>まず名古屋市からお答えします。人数についてですが、質問された方もご存じのとおり、収支計画につきましては、現在名古屋市で改めて入場者数と収支計画については定めているところですが、昨年段階で、他城郭の入場者数等を勘案し、360万人と見込んでおります。その際1日の最高人数として25000人、1日当たり3000人程度です。1500人というお話がありましたが、それは前提条件がありまして、現在バリアフリー対策について検討しているところですが、現在高齢者団体・障害者団体、様々な方から意見を聞いておりまして、先ほどのお話にあったように3月までに方針を示すところですが、その際に一つの考え方としてエレベーターを設置せず、他の代替手段、例えばチェアリフトといったものでバリアフリー対策として考えておりました。例えばチェアリフトを活用する、天守閣の階段が使いづらくなるので、大体半分くらいしか入場でき</p>

	<p>ない、運用部分については今後検討していくという中で、1500 人として委員会で答弁させていただいたところですが、全体の入場者見込みにつきましては改めて計算しているところですが、私どもといたしましては、他城郭の入場者数を勘案すると 360 万人入ると考えております。次に竹中工務店からケーソンについてお願いします。</p>
<p>竹中工務店</p>	<p>ケーソン基礎の利用について説明します。ケーソン基礎が利用できるかの調査について、ケーソンの中のボーリング調査、ケーソンのコア抜きと言いまして何か所かサンプリングをして、そこの中性化調査をしていきます。中性化調査の結果、ケーソンが今どれくらい中性化が進んでいるかということで今後の寿命が判断できると考えております。もし使えるということになりましたらケーソン基礎を利用した設計をしていくということです。ご指摘のとおり基本設計において現在この調査が終わっておらず、ケーソンを利用できるかどうか判断は現在のところできておりません。そのため、基本設計につきましてはケーソンの中に新たに杭を造成する、それで天守を支えるということを前提として設計をしていくこととなります。</p>
<p>西野所長 (名古屋城総合事務所)</p>	<p>2 人目の方のご質問ですが、今回の説明会、今日で 5 回目ですが、基本的にはパワーポイントを使って現在の進捗状況、検討状況についてのご説明をさせていただいております。そちらを 5 会場でさせていただきまして会場の方のご質問をいただく風でさせていただいております。全体まとめましたらホームページ等でお知らせさせていただくと考えているところです。この事業は完成の期限を切って、その完成期限までにどういう形でできるかということで提案を募集して、選考の結果株式会社竹中工務店の提案を優秀提案として選んだところです。その提案に基づきまして、今具体的な内容を設計しながら検討しながら計画を詰めていくところです。コンクリートの寿命につきましては、今の天守閣につきましては、コンクリートの状態等を調べて調査によって約 40 年と出ております。コンクリートを長寿命化するという手法もありますけれども、ただそれについてはその後それによって何年持つかについて立証されていないということもありますので、私どもはコンクリートの長寿命化ということではなくて、耐震改修か木造化を検討した結果、木造復元という方針にしているということでございます。木造建物につきましてはメンテナンスをしっかり行うことによって長い期間もたせていくとい</p>

	<p>う風に考えております。保存活用計画についてご説明させていただきましたが、抽象的であると、確かに計画ですので、現時点では抽象的な部分が多いかと思っております。しかし計画として示していきますと、この計画に基づいて今後具体性を持たせていきますので、大きな意味で私どもの今後の方向性を示しているものと考えております。</p>
竹中工務店	<p>3番目の方のご質問について、ありのままに作れるのか、できないのではないかというご質問ですが、先ほどプレゼンテーションさせていただきました内容についてのご質問だと思います。今基本設計を進めている段階でして、まず基本設計の中で一番大事なものは史実が何だったかを明らかにする作業だと考えています。まずは史実がどうだったかを解明しています。その後実施設計の中ですべてが実現できるかどうかを含めて、今後調査だとか実験だとかを経まして、まずは史実を深掘りしていることとお見せしようとしてプレゼンテーションさせていただいたということです。今後地震対策等史実の中ではなかったことを取り入れると、現代的な要素を色々取り入れていかなければいけないですが、まずは史実をしっかり把握して、その中でできるだけ史実を損傷しない形でいかに現代的な要素を取り込めるかということを整理するためにも、まずは今は史実をきっちり深掘りする段階であるということの説明をさせていただきました。実施設計が進んで、このように現代的な要素を取り入れて、史実はこうであったけれどもこのように変わったということについて、またこのような機会にご説明をさせていただければと思っております。</p>
舘主幹	<p>先ほどの前の列の方で質問に答えていないということですので、どこがということをお教えいただければと思います。</p>
4人目 (千種区)	<p>私の質問に答えたんですか？ 所長さん。全部答えた？ 戦災で焼けるということについての問題だとかそういうことについても何も答えてないし、コンクリートは40年しか持たないということ調べたというけど、具体的なことを言ってもらわないと、「調べた」というのは非常に抽象的で分かりません。名古屋市がやったから全部信用しろということは、それはできないわけです。だから、どこがどういう立場できちんと調査をして、そういう報告書を出したのか？ そういう報告書を私たちは全部見られますか？ 見せていただけますか？ そういうことについて何も答えてないし、抽象的な話だけだったら困るわけですよ。今日は</p>

	<p>そういう話じゃないでしょ？天守閣木造化か良いですか？悪いですか？という話じゃないんでしょ？作るということで説明しているわけでしょ？だったらもっと具体的な説明をして、たとえばバリアフリー化でもいつまでに実施するのか？全体の意向を守るということであれば、そういう計画を、いつまでに立てるのか？そういうことも全部明らかにしてくれなければ、天守閣の木造化だけが先行していて、今までの名古屋のやり方だと、他のことは全部後回しで結局やらない、ということになるのではないかと、ということも含めて質問しているのに、なにも具体的に答えていないじゃないですか。抽象論だけを言うんだったら意味がないじゃないですか。せつかく私は時間を作ってきているのです。</p>
館主幹	<p>答えられる範囲で答えたつもりですが、今の御趣旨を踏まえて、今回の耐震についての、コンクリートの劣化等の調査についてお願いします。</p>
渡邊主幹 (名古屋城総合事務所)	<p>コンクリートの関係については、ご存知の方もお見えになるかと思いますが、コンクリート自体の劣化については中性化が一つ挙げられます。コンクリート自体はアルカリ性ですが、中性化が伴ってくると、基本的には鉄筋自体が悪くなってくると、そういったことがあります。その中性化と共に鉄筋の状況を確認し、それを基に判断しているところですよ。</p>
館主幹	<p>資料が開示できるかどうかについてお願いします。</p>
西野所長	<p>先ほどの調査の内容につきましては、お尋ねがありましたら事務所でお話させていただきます。内容をどこまで開示できるかについては検討しないとお答えできません。</p>
渡邊主幹	<p>調査につきましては、名古屋市が現状がどういった状況なのか確認しているものです。</p>
5人目 (北区)	<p>そもそも、この名古屋城の木造化計画というのはおかしいんですよ。誰が、木造化をするなんて決めたのですか？誰も決めていない。市民に2万人アンケートをやったって言うてるけど、回答したのはたったの7000人であと13000人は名古屋城が木造化しようがどうしようが関係ないんです。木造化してくれなんていう市民はほんの一部！その7000人の中の2割しか、2020年の計画には賛成していなかった。2割もしていなかった。そして、そもそも2万人アンケートの中で、あなた方は、耐震改修しても40年しか持たないと。あたり前ですよ。耐震改修というのは長寿命化じゃないんだから。耐震改修して何年持つな</p>

んていうのは話の頭と後ろが付いていないんです。それと木造化はどちらが良いですか？って、子供を騙すんじゃないんだから、耐震改修と長寿命化工事、これはすでに平成7年に大阪城の工事で実績があるわけだ。成功してるでしょ？実績がある工事をなぜ評価しないんだ？あなた方が言ってるコンクリートの劣化はすでに公開してるじゃないですか。確かに劣化しているけど、耐震で危険だというのはほんの一部ですよ。全体としては持つ。だから今まだ人が出入りしているわけじゃないか。そして、問題はあなた長寿命化をしても何年持つか分からないというのはあなたの見解だよ？根拠がないんだよ！木造化しても何年持つんだ？今、名古屋城の歴史を説明されましたけど、創建時から、宝暦の大改修した木造だってメンテナンスしなければ持ちやしない！鉄骨鉄筋コンクリートだってメンテナンスすれば百年でも持つわけだ！名古屋市民が建てた魂の城をやすやすと壊してどうするんだ！だから、長寿命化してもあなたは持たないと言った、その根拠だよ！どこに調査を出してどういう回答が来たのか、あなたの見解じゃなくて、客観的な資料を示して見なさい！

西野所長

長寿命化につきましては、名古屋市の判断に基づきまして、実際にどれだけ持つかということを確認できるものがないということから、長寿命化に踏み切った時にどれだけの効果が出るか分からないと判断しております。現在根拠があるものがない、大阪城もいつまで持つかということもはっきりしないと認識しております。そういう認識のもと、我々は耐震改修か木造復元かを検討した結果今こうなっていると考えております。長寿命化については私どもはそう判断しました。竹中工務店の優秀提案を説明する説明会の中でご質問に対しては、私どもは長寿命化についてははっきりした効果を説明できないとお答えしています。少しだけ説明させてください。プロポーザルで提案募集をしました。それにつきましては、技術提案・交渉方式というもの、これは国がガイドラインを出しています。それに則って選定をいたしましたので、その中で優秀提案というものが出てきます。ですから優秀提案を選んだと申しました。

6人目
(南区)

単純な答えを聞きたいのですが、今日は楽しみにして来たんです。それなのにこの資料はなんですか？何にもいらぬですよ。寄付のお願いの資料なんですかね？まったく白紙、国会で見たような黒塗りの資料みたいな、透明な

用紙があるだけですよね。で、説明会を5回ぐらいやってみるみたいですが、今までやってきて、他の会場でそういう資料が欲しいとか、今日プレゼンやりましたよね？今日お集まりの方たちにどうやって説明するのですか？上っ面だけフワ〜っと、水に油が浮いていったようなもので、何もわからないですよ。完璧に失望しています。

竹中さんの方にお聞きします。私は一応、職人です。いまCGを見せていただきましたけど今プレカット流行で、プレカットがほとんどで、名古屋城もやるのかなと思うのですが、プレカットだけってできないですよ？丸太も多いんだから。のものの長材とか、外材のベースがらとかそういうものを使うんだったら、5層の建物が、乾燥材を使わずして、歪みとかそういうのは計算されてやっていることでしょうか？優秀な提案を受けたというのですが、一つの例として、奈良の薬師寺の5重の塔を工事したときに西岡棟梁が、今でも行ってもらうと分かるのですが、西塔と東塔とあり新しい方の屋根の角度が水平に近い形になっており、それは違うのでは？という質問に対して答えたのが「100年経ったら同じようになるんだ」と。それを見込んでの勾配で、職人の勘です。コンピューターで計算できないものがやってあるのです。そういうことを踏まえてやっていくと2~3年前に行った姫路城では、史跡に残るような復元ということだったのですが、仲間内の職人が「全く違うことをしてるじゃないか」と指摘していました。それは、土葺きの瓦を棧葺きに変えていたのです。釘は使っていませんと言っていたけど、棧葺きで釘を使っていました。軽量化されたら重量計算とかが全然違ってくるはずなんです。だから、竹中さんはスーパーゼネコンで優秀だと思えますけど、名古屋市の方が、どういう点が優秀だったのか、そこら辺の資料もあって、公開されていれば納得できますが、今日の資料は何にも役に立っていない。この資料は途中で捨てればいいですか？ただ失望しました。アンケートにもそう書きましたけど。明瞭なお答えをお願いします。

西野所長

大変貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。今回お見せしたプレゼンテーションのパワーポイントを使ってご説明をさせていただくと考えまして、特にこの内容についてお配りしておりません。実際竹中工務店さんと基本協定を結んでからの状況ということで説明を考慮しておりましたので、その前からの優秀提案の内容だとかの説

	<p>明については考えておりませんでした。今後行う場合のご意見として検討させていただきます。</p>
竹中工務店	<p>西岡棟梁の新薬師寺のお話とか、伝統建築というものの難しさ、木の変形や乾燥状態を考慮しながらどうしていくかは課題です。現在、基本設計段階というところで、有識者の先生、木材関係の知見を持っておられる先生方から色々なご指導をいただきながら進めております。プレカットのお話がありました。生産性を向上する、スケジュールを守るうえで、データ連携をしながらプレカットできる部分についてはやっていきたいと考えています。今後そういう風に進めるかは検討してまいります。どういう仕上げをするかは職人さんのお知恵も頂戴しながら進めていくと考えております。</p>
7人目 (南区)	<p>天守閣の入場者に対する質問です。現在では桜のシーズンやゴールデンウィークには一日に何万人もの来場者でエレベーター待ちの人が、本丸御殿より先の表二之門付近まで並んで、待ち時間が2時間とも言われています。木造天守になりますと、計画では、地下に500人分の下駄箱が設置され、そこで履き替えて登るようですが、仮に、一人30分の滞在時間としますと、1時間に1000人、1日に8000人の人しか登ることができません。このため、入場料を1000円に値上げするということを言っておりますが、登れない人が大勢でてくるのが当然ですが想定されます。天守閣に入れなかった人をどうするか？それは入場料を一律1000円にするのではなく、昭和6年当時に名古屋城が採用していたように、内苑と天守閣を分けて、2段構えで徴収する方法だと思います。当時は内苑30銭、御殿が1円と別料金体系であったかと思います。これを現在にあてはめると内苑500円、天守閣500円での徴収かと思います。登れない人のことを考えて今一度、収支計画をきちんと立て直すべきかと思います。</p>
8人目 (緑区)	<p>今日説明を聞きまして、木造建築を竹中さんでやるのが、デキレースのような感じを受けました。私が思っているのは、石垣のことなのですが、他の詳しい方たちから聞いた話では、石垣を触らずに立て直すことはできないという話を聞きました。それと同時に、文化庁の方から、例えば熊本城のように災害で壊れた場合は仕方ないけれど、なんにも壊れていない状態で名古屋城を取り壊すということに対して、文化庁からはOKが出ていないという話も聞いたことがあります。それで、本当に石垣を触らずにそれができ</p>

るのか？私はそれは無理なんじゃないかと思います。上だけ建て直すにしても、石垣を触る必要があるんじゃないかなと思うのですが。色んな石垣の組み方もありますし、それは上ものを建てるよりも難しい問題だと思います。先ほどのお話では文化庁の返事待ちのようなニュアンスだったのですが、いまのような段階ですでに完成する日付を上げているのもおかしいと思います。それと、防災のこと。これだけのたくさんの方が入るわけですから、やはりスプリングラーだったり、非常階段だったり、そういったものが必要となると思います。それに木造建築で3階建て以上のものは違法建築です。公の施設とはいえ、今のお城が壊れてなくて十分機能しているので、私は必要はないと思います。私の周りの主婦たちは、来年にお城を壊してしまうということを知らない人がほとんどです。以上です。

舘主幹

まず一つ目の質問について、入場者数についてご質問をいただきましたので、私の方から回答させていただきます。入場者数については姫路城を参考とさせていただいております。姫路城については、できあがった直後の年は約287万人入っております。名古屋城の場合姫路城の2倍の面積がございますので、入場者数としては確保できると思っております。先ほど桜の時期、ゴールデンウィークの時期にお待ちいただいている場合もございますが、全体として名古屋城には3万人の入場者がおられます。一つのご提案として、入場料を内苑と天守閣で分けたらどうかというご意見を伺いましたが、今後入場料を検討していく中で一つのご意見として参考とさせていただきたいと思えます。2人目の方の質問についてまず名古屋市から願います。

渡邊主幹

石垣についてですけれども、現状石垣がどういった状況になっているかについて調査の方を進めているところです。まずは石垣がどういった形になっているか、現状どうなっているかについてまず把握して、把握をすることによって今後石垣をどう維持保全していくかについてまずは検討していく必要があると考えております。そのような中で、今後木造復元をしていくにあたって、石垣を維持保全しながらも木造復元をしていくといったことに対して、どのような形で木造復元をしていくかに関しては、今まだ石垣を調査している段階ですので、調査結果を踏まえながらも今後どういった形にしていくかについて、文化庁ともどもご相談をかけていく必要があるかと考えております。文化庁

の方から石垣に関してどうたこうだといってお話をいただいている段階ではないといったところです。先ほど終わりが決まっているということは何となくおかしいのではないかというお話をいただきました。行政としては基本的には木造復元をしていくことの一つの目標の日付として、まずは日付を決めさせていただいてやっていきたい、石垣の調査をして、工期の目標として我々としては努力していくということでございます。

竹中工務店

最後のご質問だったかと思いますが、建築基準法に準拠すべく、建築基準法3条がありまして、国宝とか重要文化財同等というふうに認知していただける内容の建築物については、建築基準法の各条項を除外できる特例がございます。元々は国宝である姫路城とかそういったものを対象とした法令ですが、そういったものが幅広く、大規模木造でも建築基準法から除外できるという取り扱いで今回は進めていこうと考えています。当然それには関係諸官庁・有識者との合意形成が必要となります。

3条4項に適用されるということで、すでに大洲城はそれを適用されて復元されている事例です。

許可申請を得るために、避難とか消防設備についても検討しながら進めています。繰り返しになりますが、CGだとか本日のプレゼンテーションについては、復元案をベンチマークとして復元案を整理していくものです。

発言者	発言内容
1 人目	<p>木造の完全復元に賛成の立場で発言をさせていただきます。私の仕事は建築行政の一級建築士で確認申請の方の仕事をしておりますので、その観点からご質問です。まず第一に、文化財、建造物としての文化庁等との調整が必要だと思われませんが、建築基準法による制限とか規制についてはいかがでしょうか？私の浅はかな考えでは、3条1項4号の規定により、復元というか、昔あった姿そのままに作り直すことは、現基準法の規定を受けないという規定によって再建されるものだと思いますがいかがでしょうか？</p> <p>経済性については、コンクリートの場合、私が学校で習った工学的な見地で言いますと、約100年からせいぜい150年ぐらいの耐久性かと思いますが、現に、世界最古の木造作りの法隆寺は1300年持っております。約100年ごとの修理、先ほど竹中さんからの説明があったかと思いますが、そういうものを加味しても、これから未来永劫にわたって、100年ないし150年ごとにコンクリートで直すことと1300年もっている木造建築の経済性のどちらが優先するか、ご検討されているかご質問させていただきます。</p>
2 人目 (熱田区)	<p>自分も名古屋城の木造建築に関してはすごい賛成なんです。なぜかという、自分は今40歳で、自分の子供だったり孫に向けて、今の名古屋市というのは魅力の無い街ということを言われていることに対して、すごい憤りを感じています。その中でこの名古屋城ができあがって、先ほどの5重の塔の話もそうなんですけど、年月をかけて少しずつ変化を持たせればその分だけご来場される方が増えていくんじゃないかなという風に思っているので、ぜひ参考にさせていただけたらなと思います。また、名古屋城だけではなくて、できたら名古屋市全体の魅力を盛り上げるために名古屋市さんに伺いたいのですが、名古屋城の木造建築と共に、名古屋港だったり、熱田神宮などの魅力のあるところとどう繋げていくのか？というのを教えていただけたらなと思いますので宜しくお願いします。</p>
3 人目 (昭和区)	<p>今バリアフリーについて検討されているということで、名古屋城で、せっかくですから、市長さんが「色んな背負い子にかかえてもらえばええやないか」と、いうふうにおつ</p>

	<p>しゃってましたので、それこそ色々な電動車椅子の方もいらっしゃると思います。実際にCGを見ますと階段がかなりの急勾配になるのかなど。名古屋城の階段を実際に、その方たちと、議員さんとかとみんなで一緒に最上階まで担げるかどうか、それをまず検証してほしいというのが私からの願いです。</p> <p>それともう一つ、バリアフリー検討会なんですが、これはなぜ非公式なのでしょう？私が全然分からないという所で進めていかれると、国会の方ではなんとか学園とかで「書類は捨てちゃいました」とか、「覚えてません」とか、「誰が発言したか分かりません」とかそういうものもありますので、しっかりと、みんなが、市民が、国民が世界中の人たちが見えるような形で、ネット配信だとか見える形で進めていただきたいなと思います。</p>
<p>舘主幹 (司会・ナゴヤ魅力向上担当部)</p>	<p>1つ目の質問から、名古屋市から建築基準法の規制と経済性についてお願いします。</p>
<p>蜂矢主幹 (名古屋城総合事務所)</p>	<p>建築基準法 3 条適用についてご質問をいただきましたのでお答えします。名古屋城につきましては昭和 5 年に天守閣が国宝に指定され、昭和 7 年に名古屋城全体が史跡として指定されております。3 条 1 項 4 号につきましては、特別史跡内の建築物であったものの再現について建築審査会の同意が得られれば適用ができるということになっております。特別史跡に指定されたのは昭和 27 年でしたが、その時点で天守閣はありませんでした。しかしながら特別史跡の指定には、昭和 7 年の史跡の状態を引き継いでいるということになっておりますので、昭和 7 年に天守閣がありましたから、この復元について法 3 条の適用が可能であるという風に考えています。</p>
<p>渡邊主幹 (名古屋城総合事務所)</p>	<p>経済性についてのお話をいただきました。コンクリートは 100 年から 150 年で建て替えみたいな形が必要ではないか、木造は 1300 年持っているといったお話をいただきました。現在としては我々としても木造復元をし、その木造建物自体を修理し長く持たせていくという考え方を持っています。長く持たせることによって経済的にも効果があるのではないかと考えています。木造復元されたものをより大事に修復しながら長く持たせていく、そのように考えております。</p>
<p>舘主幹</p>	<p>2 人目の方、名古屋城の魅力を高めるためには周辺との連携をとったほうがいいのかということについて、</p>

	名古屋市からお願いします。
西野所長 (名古屋城総合事務所)	名古屋城の魅力ということで、名古屋の魅力をということで、名古屋城から周辺をつないでいったらどうかというご意見をいただきありがとうございます。名古屋城は非常に今多くの観光客の方に来ていただきまして、ここを拠点としながら先ほど言われた熱田や港、色々な魅力とつなげていくことは大事だと考えております。私どもとしても都市魅力の戦略等を持ちながら、たとえば堀川とつないでいて熱田、あるいは港ですね、今メーグルというバスがありますけれどもそういった交通アクセスをうまくつないでいくとか、そういったことも考えておりますし、「信長攻路」ということで清須から信長が桶狭間を攻めた、そういったルートもPRしたいということも行っておりまして、ストーリーをしっかりと伝えていくことも大事だと考えておりますので、ご意見を踏まえて、今後ともしっかり検討してまいりたいと考えておりますのでよろしく願いいたします。
舘主幹	3人目の方、バリアフリー対策について検討してもらいたいということと、検討会をなぜ公開できないのかの2点についてお願いします。
中野主幹 (名古屋城総合事務所)	最初の質問で、市長が言う背負子(しょいこ)の検討については、当然安全性・恐怖感、そういったものの懸念がございますので、実現可能性も含めて十分検討していきたいと思っております。今後についても当然市長と相談しながら、実現できるのか、やっぱり難しいのか、そういったところを十分検証しながら進めていきたいと考えております。もう1点、現在行っております市内での検討会議がなぜ非公開であるのかについてですが、検討会議については内部の会議でございますので、まずは内部で十分議論を尽くしたうえで最終的な方針案を決定したのちには公開する予定をしておりますが、現時点では非公開という形で、内部の会議という形で進めさせていただいております。
4人目 (天白区)	先ほどからいろいろと名古屋城についての説明がございまして、なるほどなあと思うことばかりだったのですがこれは、博物館にきちんと展示するなりなんなりして解説をすべき内容ではないか？と私は思います。木造復元をして、木の壁と木の柱をいくら覗んでいたって、今日あったような説明は何も分かりません。ですから、せっかく名古屋城にある歴史博物館できちんと展示していくということを考えられたらどうか？と私は思います。

もう一つは、先ほどの原さん（講演会にて）からのお話にもありましたが、昔の天守閣というのはお殿様もほとんど中に入らなかったというお話でした。名古屋城の展示物をみますとこんな解説がありました。天守閣の中に入ったのは月に2回の掃除のためとお殿様の巡覧の時で、それも生涯に1回しかなかったと書いてあります。そんなにお殿様も嫌な中身を、昔通りに再現して、世界中の観光客のみなさんに見に来て下さいというわけにはいかないのではないか？と思うのですが、どうでしょうか？そうすると、たぶんこういうご返事があると思うのですが、姫路城を見ると。あんなにみんな見に来てるじゃないかと。姫路城はあれは実物です。ですからあれば見に来た方に、これは江戸時代の人がすごいものを作ったねそうだね、と答えられますが、木造復元の天守閣はどうでしょう？すごいものを作りましたね、竹中工務店の大工さんが作りましてって言わざるを得ない。これはまずいと思うんですがいかがでしょうか？

5人目
(瑞穂区)
※保護者が代理して発言

娘は言葉で表現することはしませんが、学校ではいつも目で会話をしていますので私（父親）が代理でお伝えさせていただきます。今この名古屋城の天守閣の新築というのは、娘の小学校でもすごく話題になっておりまして、今小学校6年生なのですが、河村市長さんともご縁があって、地域の通常の学級に通っていて、本人がすごく気になっていて、私は天守閣に登れるのだろうか？という話を、朝礼の3分スピーチでしました。そしたら、同じクラスのクラスメートの子たちが、見栄えを崩さずにエレベーターを付けていくのが大事じゃないか？とか、ベビーカーの人はどうするんだ？とか、小学生の中でもそういう議論になりました。本人も、通常学級に通ってるときに、1年生の時にバリアフリーになって、3年生のときに学校にエレベーターが付いて、普通なら図書室にも入れなかったのですが、エレベーターが付いたことによって、先生に抱えてもらうことなくクラスのみんなどと一緒に図書室に行って本を借りることができました。その中で、図書室で徳川家康の本だとか読んで、本人は真田幸村が好きになったみたいですが、今日も名古屋城の歴史の話を興味深く聞いていたのですが、そこと通じている話で、今ユニバーサルデザインだとか、インクルーシブ社会というお話がずっと出てきていて共通の言語になってきていますが、これは分け隔てなく、様々な人たちが訪れることが出来る社会を目指す

ということで、ぜひ名古屋市にそういった事に関して先頭に立ってお城や街作りをしていただきたいなというのが、本人も頑張っただけで目の合図で色々な原稿を書いたので、それを今日は伝えに来ました。ぜひ、様々な人たちが名古屋城に入れる設計やアイデアを出していただいて、これからだと思いますので、今の現状の常識ではなくて。かかえて上がったたりするのは、本人（娘）も非常に怖がったり、電動車椅子の方だとすごく重量があつたり、本人（娘）は人工呼吸器を付けていて機材が乗っていますので、それを下ろしてからチェアリフト上がるということも出来ません。私たちは、バクバクの会という人工呼吸器を付けた当事者の会に所属しておりますが、そういった方たちが全国に数百名、数千人いるかもしれませんが、そういった方がぜひ訪れてくれるような名古屋城を作っていただけたらと思いますので宜しくお願い致します。

6 人目
(瑞穂区)

いろいろな歴史の話はよく分かります。また竹中工務店の方も苦労されているのもよく分かります。私は 100 分の 100 の複製品を作るような、模造品じゃないかなという気がするんですよね。いろいろと宣伝されてることと実際はちょっと違うんじゃないかな？と、口だけで旨く言ってるだけなんじゃないかな？と、思っています。例えば、同じように作ると言ったらそんなのは不可能ですよ。また 400 万人が訪れると言っているんですけど、登ったり上がったたりする人で 1 分間に何人通るかと言ったら、それで急な階段とかありますから、実際には不可能なことをあたかも実際にできるように言ってるのが、将来は名古屋の恥になるんじゃないかなと思っております。

もう一つ、他の人も言っていましたが、他の区で行われた説明会に、障害の人とか高齢者も見れるようにするにはどうするんか？という質問に対して、市長が「ボランティアに担がせたらいいんだ」と、言っていてそういうような考えの人が旗振りするようじゃ、私は誤魔化しているように感じます。やはり現在に合うように作らないと恥じゃないかなと私はそう思います。先ほど会場の方がちょっと言っていた意見で、県外の人から、名古屋のイメージが悪いというのは、市とか市長がそういう発言をしてるからじゃないかなと。実際に魅力が無いわけじゃなくて、魅力が無いように働きかけているんじゃないかなと私は思います。

館主幹

1 人目の方からの、名古屋市から、歴史博物館として残すべきではないかということと、殿様も登らなかつたような

	<p>お城を復元する意味は何かという 2 つのご質問についてお願いします。</p>
西野所長	<p>ご意見ありがとうございます。今日説明をしました天守閣の元々の木造天守自体の説明は、構造だとか石落としはこういうものだとか、本来の天守の役割、どういう建物かということをよく分かっていただけるような説明等をしっかりしていきたいと思っております。現在ある天守閣自体は博物館相当施設になっているので収蔵品などもございます。こういった収蔵品については、今回作る天守は博物館ではありませんので、そういった収蔵品を展示する場所は別途設けていくように検討してまいりたいと考えています。お殿様が自分の代で 1 回しか行かなかったような嫌なところを、といったお話がありました。確かに私も殿様が巡回したのは自分の勤めたときに 1 回だったというお話は認識しております。殿様が嫌だったかどうかは分かりませんが、天守閣自体は名古屋の人達にとって非常に大きなシンボルといますか、心の中に深く残っていたものだったろうと思います。戦争で昭和 20 年まで残っていた天守が焼けて天守台だけになりました。それが非常に寂しいということで市民の方々の熱い思いで昭和 34 年に今の天守閣ができたというようなことがございます。現在の天守についてはそういった価値はありますけれども、このまま放置しては耐震性にも問題がありますし、老朽化の問題もあります。そこで名古屋市が検討しました、アンケートも取りました、そういうなかで耐震改修よりも木造で復元していく、そういう方針を定めて今進めているものでございます。そういうものですので、今度は戦争で燃えたものを史実に忠実に元の形で名古屋市民の手でしっかりと復元をしたということをしかりと伝えていくことで、この木造天守をより多くの方々に注目していただけるし、また名古屋のシンボルとして価値があるものになる、そう考えているものでございます。</p>
舘主幹	<p>バリアフリー対策について、抱えられるのも怖いということで、名古屋市として先頭に立ったバリアフリー対策をお願いしたいということに対する回答について、名古屋市からお願いします。</p>
中野主幹	<p>繰り返しになりますが、木造復元につきましては史実に忠実に復元するという基本方針としています。ですがその一方で先ほど質問にございましたユニバーサルデザインの採用ですとか、バリアフリー対策など、様々な方に喜んで</p>

	<p>もらえる天守にしたいと考えています。そのために今各方面の方からご意見を賜っているところでございますが、最終的にはこの 3 月までに方針を決定してまいりたいと思いますので、その中で検討を進めてまいる所存ですので、よろしく願いいたします。私は天守に登れるのだろうかといったご発言もございましたが、色々検討したうえで、最終的には 3 月に結論を出したいと思っておりますのでよろしく願いいたします。</p>
館主幹	<p>最後の方、模造品ではないか、同じように作ることはできないので、ということに対する質問と、説明会の発言はごまかしではないのか、現代工法も合うように使うのだろうかからそれについての名古屋市の考え方についてお願いします。</p>
渡邊主幹	<p>名古屋市といたしましては、現在名古屋城については沢山の資料が残っているので、その資料にまずは基づきながら復元していきたいという形で思っているところです。そのなかで先ほど姫路城のお話がありましたが、姫路城の運用等も参考にしながら名古屋城でどのような形で運用していくのか参考にしていながら、色々検討が必要ではないかと考えているところです。今回名古屋城の木造復元につきましては、現状としては博物館として使われている機能がありますが、内部空間等真実性の高い姿にすることによって本来の機能等を皆様方にお伝えすることができる、そういったことがあれば、実際の名古屋城の機能を知っていただくことによって、名古屋城の本質的な価値の理解の促進につながるのではないかと、そのように考えておりますので、皆様に名古屋城の本来の姿についてお伝えすることができるのではないかと考えております。</p>
7 人目 (東区)	<p>説明会にはあまり関心がなかったのですが、先日の名東区の説明会に参加させていただきました。自分なりの見解が非常に稚拙なので発表するのも恐れおおいのですが。名古屋城の復元ということで今の市政は動いてますから、それが大前提なんですけど、私は歴史にはマニアックではないのですが、自分の私見で言うと、なぜ名古屋城を今復元しなければいけないのか？という原点です。加藤清正が、と先ほどいろいろありましたけれど、あの人は朝鮮に征伐に行っただとか、大陸に進出したと言っていますけど、私の勤めている会社は中国と取引がありますから、説明するときに朝鮮半島の侵略者ですね、はっきり言って。私たちは郷土英雄視してますけど、でもそれは過去の済んだものと</p>

	<p>して、未来志向で未来に語っていくならば、今更復元することじゃなくて「戦争の復興をしました」「戦争の反省に基づいて今の市民の名古屋城を作りました」と、そこから始めて今のあるものを保存しながら、アジアの中で私達は、平和で豊かな都市で、世界に貢献する企業も名古屋にはたくさんあるので、それを支えてる市民です、という行政に立ち返ってもらえないかなと思っています。</p>
<p>8 人目 (江南市)</p>	<p>市外の立場からいくつかお願いがあります。まずは、名古屋市の名古屋城というシンボリックな存在です。私が生まれたのは犬山城のふもとで生まれたのですが、犬山城とか近隣の城郭などと連携を取り合った、いろんなメイクストーリーだとか、そういったものも世界に発信できるような事をやっていただきたい。犬山ではありませんが、私も犬山城の城下町の再建をやってきました。制限はあるかもしれませんが、是非とも、もっと楽しい城下町にして、犬山城のように、たくさんの人を集められるようなことをやられるといいんじゃないかなと思いました。そして、いくつかの提案なのですが、世界に名古屋城が誇れるような、例えば、映画のロケにすぐに使えるような、そういった設え（しつらえ）などもしていただくと良いのではないかな？と思います。さらに、いろいろなマネーメイク、例えば、名古屋城を作るにあたっていろんなグッズを売り出したりとか市民のみなさんから前向きなアイデアをいっぱい募っていただいて、楽しい名古屋城の再建、そして城下町の再建などをしていていただきたいなど、市外からの立場として少しご提案させていただきました。</p>
<p>9 人目 (昭和区)</p>	<p>せっかく復元されるなら、私たち電動車椅子、高齢の人たちが気楽に見れるようにエレベーターを付けて欲しいと思います。</p>
<p>館主幹</p>	<p>まず一人目の方、先ほどと少し被るところがあるかもしれませんが、なぜ今復元するのか、戦災復興の象徴として大切にするべきではないのかということについて、名古屋市からお願いいたします。</p>
<p>西野所長</p>	<p>名古屋城、そしてその中でも天守閣は名古屋市民にとってシンボルとして非常に重要なものになっていると我々は認識しております。その中で今の天守は放置できないということからどうしていくべきかということを検討したうえで木造復元と決めたものですので、ご理解をいただきたいと思います。</p>
<p>館主幹</p>	<p>2 人目の質問の方、提案ということで、近隣の城郭と連携</p>

	<p>したり、あるいは城下町、そういった楽しいまちづくりをしてみたらどうかということと、市民のアイデア募集みたいなことをして盛り上げたらどうかということでご質問がありました、それについて回答をお願いします。</p>
西野所長	<p>犬山城は最近非常に入場者も増えております。犬山城の前の本町と言いますか、通りが非常に整備されて魅力的になっているということも認識しております、私どももそういったことも念頭に置きながらこれから検討していきたいと思っております。例えばお城のスタンプラリーで他城郭と連携しているということもございますので、そういったものも今後発展させていく必要があると考えておりますし、3月29日に金シャチ横丁がオープンします。まだ規模としては大きくないですけれども、昔の城下町の雰囲気を作る、そのなかで出店していただく各お店が金シャチ横丁ならではのものみたいなもののアイデアを練っていただいていると思っておりますので、色々な形の民間連携、皆様のアイデアをいただく、そういったことで今後名古屋城の魅力をさらに高めていきたいと思っております。</p>
中野主幹	<p>木造天守については気楽に登れるようにエレベーターを付けて欲しいとのご要望を賜りました。繰り返しになりますが、名古屋城は史実に忠実に復元するという基本方針ですが、先ほども申しましたように、バリアフリー対策など様々な方に喜んでいただきたい天守にしたいと考えておりますので、今そういったご要望も障害者団体・高齢者団体の皆様からいただいております。これを十分踏まえて今検討しているところでございまして、3月までに方針を決定してまいりたいと考えておりますので、ご理解をよろしくお願いいたします。</p>
舘主幹	<p>12時半を過ぎましたので、最後にお一人の方をお願いします。</p>
10人目	<p>拍手しない人が結構いると思うんですけど、だいたい、反対意見・賛成意見を聞きながら自分の感覚をまとめている人だと思います。世の中というのは、大賛成人が2割いて、何がなんでも反対の人が2割いて、おおむね6割の人が成り行きを見守っているということでございます。今思うのは、将来にわたって何をしたら良いのかということ協議していますので、未来に向かってどんな発言があり、どんな意見があり、どんな方法があるか、解体修理しながら直していったり、初版の設計から作りながら解体したのもありますからエレベーターとかそういった類の話も規</p>

模がデカイですから、やりようによってはやれるでしょう。その中で、例えば、一旦、本物というか復元をした段階で、どこの部分をどういう風にして、解体とか改修してエレベーターを付けたとか、そういうものを後々の人達に、こういう工夫をして努力をして特にエレベーターというのは何十年かに一回は解体修理しないといけませんから、そういうのを含めるとやって欲しいなあと、これは要望です。提案としては、例えば、これから20年、30年後に東南海のデカイ地震がきます、恐らく。その時に熊本城のようになっては困るなと思うので、天守閣の下を、どう地震に対応できるか？それを実に知りたい所です。戦争で焼けてしまった石垣だっただいぶ痛んでますから、石垣の修理は必ずしなきゃいけないのですがそれを、できたら私は聞きたいなと思っています。それと、後ろの方が、すごく反対意見の時に大きな拍手をしますけど、できたら、反対するための終着になるんじゃないかと未来のために自分の反対意見がどう反映されるかを考えていただけるといいなと。おおむね6割の方ができたらいいなと思っていますはずなんです。そういうことで名古屋市の方も竹中工務店の方も未来に向かってどういう意見をどう集約していったらいいか、そこら辺を考えながらまた今後こういう反対意見も含めて、会をできるだけ続けていっていただくと、段々と意見が集約していくんじゃないかなと思っています。

渡邊主幹

今後解体修理をしながらその部分の修理についていろいろ記録を残したりだとか、将来・未来に向かってどういった形のものが残っていくのか今色々議論すべきではないかというお話だったかと思います。基本的には今後史実に忠実に復元はしていくものの、どのような形で付加要素の機能、先ほどあった東南海地震に向けてどういった対策をしていくか当然検討していく必要があると思います。史実に忠実に復元しながらも現代の中での検討状況がどういったことなのか記録に残しながらですね、今後、平成のこの時期にどういったことをやったのかを後世の皆様に記録として残していけるかについては今お話しいただいた通りかなと思っていますので、我々のほうでも検討していけるものについては検討してまいりたいと思います。石垣につきましては、石垣の現状について調査をしているところです。石垣がどういった状況になっているのか、そういったことの状況を踏まえながらも、今後当然ながら来

場者の方々には安全性を確保していく必要がありますので、石垣の状況を踏まえながら安全対策をどうしていくかについてもあわせもって検討していく必要があるかと思えます。検討内容によっては先ほどおっしゃられたとおり現状こうだったけれどもこうしたということについて記録に残しながら進めてまいりたいと考えております。